

官報

號外

明治三十一年六月三日

金曜日 內閣官報局

○第十二回 衆議院議事速記録第十一號

明治三十一年六月二日(木曜日)午後一時八分開議

議事日程 第十號 明治三十一年六月二日

午後一時開議

第一 民法中修正案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 戶籍法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 衆議院議員選舉法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 裁判所設立廢止及管轄區域變更ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 罹災救助基金法案(政府提出)

第一讀會

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 航海獎勵法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 秩祿整理公債法案(深山鑾君外十七名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(片岡健吉君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

(寺田書記官朗讀)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案(第三號第四號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ要スル件(第二號)

貴族院ヨリ送付セラレタル議案左ノ如シ

船員法案

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

配當祿處分法案

提出者 小室重弘君

深山鑾君

提出者 深山鑾君

明治三十年法律第五十號中追加法律案

提出者 深山鑾君

西谷金藏君

谷澤龍藏君

高須賀禎君

二位景暢君

金尾稜嚴君

松島廉作君

恆松隆慶君

佐々木正藏君

橋本久太郎君

高津雅雄君

吉田吉十郎君

廣島縣下郡界變更法律案

提出者 井上角五郎君

小田貫一君

特別委員長及理事左ノ適當選セラレタリ

鐵道公債事業公債及北海道鐵道公債ヲ外國ニ於テ

募集スル場合ニ關スル法律案委員長

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

同理事

佐々木高榮君

松井將壯君

市島謙吉君

降旗元太郎君

星松三郎君

廣瀨貞文君

齋藤貞輔君

佐々木高榮君

鳩山和夫君

久良知寅次郎君

武市庫太君

藤岡常彦君

野坂茂三郎君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

中辰之助君

シタイト云フコトデアリマスガ、許可スルコトニ御異議ハアリマスマイカ
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通ニ致シマス——請願委員長ハ今
 見エテ居リマセヌ

○小室重弘君(百八十八番) 請願委員長ガ居ラレマセケレバ、理事ノ諸君
 ガ居ラレマセウ、サウ云フ諸君ガ居ルナラバ、ドナタカラデモ宜シイ、餘リ
 請願委員會ガ此院ヨリ託サレタコトニ附イテ甚ダ其職務ヲ曠廢シテ、曠
 廢シテト申シテハ失禮カ知レマセヌガ、投ダヤリニナツテ居ルト云フコトハ、
 私ハ遺憾ニ思フノデゴザリマス、ドウカ理事ノ諸君カラ報告ヲセラレタイ

○議長(片岡健吉君) 尙ホ議長カラモ請願委員長ヘ其事ヲ注意致シテ置キマ
 ○小室重弘君(百八十八番) 然ラバ御約束致シテ置キマス、明日ハ開會ノ始
 ニ於テ報告ヲ願ヒマス
 ○議長(片岡健吉君) 是ヨリ議事日程第一ニ移リマス

第一 民法中修正案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

(大岡育造君演壇ニ登ル)

○大岡育造君(二百八十四番) 民法中修正案ニ附キマシテ、委員會ノ經過及
 結果ヲ御報告申シマス、民法中ノ修正案ハ、先月ノ二十五日ニ調査ヲ始メ
 マシテ、昨六月一日ニ其調査ヲ終リマシタ、調査ニ係リマシテヨリハ、毎日
 午前九時カラ十二時マデ、議場ノ都合ニ依リマシテハ、午後モ此會ヲ續ケマシ
 テ、毎編毎節或ル場合ニハ、毎條ト云フ程ニ詳シク説明モ聞キマシタシ、討論モ
 重ネマスルシ、修正案モ出マシテ、遂ニ昨日其全部ヲ審査シ終リマシタ、結局
 民法中ノ修正案中ニ箇所ノ修正ガ成立致シマシタ、其第一ハ七百三十四條ノ
 第二項ヲ削除スルコト、今一ツハ第八百三十三條中ニ列記シテゴザイマスル中
 ノ第四號中ニ「配偶者カ」ノ下ニ配付致シマシタル修正報告ノ如クニ、七十五
 字ヲ加ヘルコトニナリマシテゴザイマス、今一ツ御注意マデニ申シテ置キマ
 スガ、此民法ノ修正法條中ニ千二十八條ノ二項ニ「第一千二十條」ト云フ字ガゴ
 ザイマスガ、調査中了解ニ苦ミマシテ、詮索致シマシタ所ガ、ソレハ第一千二十
 一條ノ誤植デアツテ、「一」ノ字ガ落チテ居ルト云フコトガ分リマシテゴザイ
 マスカラ、念ノタメニ申シテ置キマス、以上ハ經過及結果デアゴザイマス、而シ
 テ何故ニ二箇所ノ修正ヲ致シマシタカト云フ説明ハ、數多出マシタ修正中デ
 成立致シマシタ、此二箇ノ提出者ハ藤澤幾之輔君デアゴザイマスカラ、藤澤幾
 之輔君カラ其意味ヲ御報告申積リデアゴザイマスカラ、御聽取リニナルヤウニ
 願ヒマス

(藤澤幾之輔君演壇ニ登ル)

○藤澤幾之輔君(百七十七番) 唯今委員長ヨリ報告ニナリマシタル通、民法
 中ノ修正案ニ對シマシテ、二箇ノ修正ヲ加ヘマシタ、私ハ委員ノ一人トシテ

且ツ其修正ノ提出者トシテ修正致シマシタル理由ヲ述べテ、諸君ノ御贊成ヲ
 請ヒマスル、二ツノ中、其一ハ、第七百三十四條ノ第二項ヲ削除致シマスル
 ノデス、七百三十四條ハ二項カラ成立ツタ所ノ法條デアゴザリマス、第一項ハ
 チヨット御分リ易イヤウニ讀ンデ見マスルガ「父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁
 ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適
 用ス」養子ニ參リマシタ所ノ者ガ、ソレヲ去リマシタトキニ於テ、其婦ト爲リ
 マシタ所ノ者ガ、懷胎ヲ致シテ居ツタ、即チ左様ナ場合ニ於キマシテ、養子
 ガ原因ガアリマシテ、其家ヲ去リマシタトキニ於テハ、其懷胎中ノ子供ハ何
 處ノ家ニ入ルカト、即チ其懷胎當時ニ遡リマシテ其家ニ居ルデアリマスカ
 ラ、養家ニ入ルト云フコトニナツテ居ルノガ、第二項デアリマス、ソレデ、
 第二項ハドウ云フコトカト云フト、「前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタ
 ル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲナシタルトキハ此限ニ在
 ラス一斯ヤウニアル、即チ本項ノ方ハ懷胎中ニ於テ父母共ニ其家ヲ去ツタ
 トキニ於キマシテハ、前項ヲ適用即チ前項ノ規定ニ全ク相反シタル所ノ結果
 ヲ示シマスモノデ、即チ父母共ニ其家ヲ去ルヤウニナツタナラバ、其懷胎ノ
 子供ハ去ツタ所ノ父ノ方ニ參リマスノデアリマシテ、養家ノ子供ニハナラナ
 イ、養家ノ籍ニ入ラナイト云フノガ、第二項ノ規定デアリマス、即チ此修正
 ハ第二項ヲ削除致ス、即チ縱令養子夫婦ガ養家ヲ立去リマシテモ、其養家ニ
 アツテ懷胎致シマシタル所ノ子供ハ、矢張養家ノ籍ニ入ル、裏カラ申セバ、
 之ヲ削除致セバサウナリマスノデ、サウ致シタイト云フノデス、原案ノ通ニ
 致シマス、子供ノタメニ利益ノ場合ガアル、即チ懷胎中ノ子供ニシテ、父
 母共ニ其家ヲ去ル時分ニハ、養家ニ其子供ガ殘サレナイノデアリマスカラ、
 養家ニ入ラヌノデ、即チ母ノ手ニ依ツテ育テラレルト云フ利益ガアルノデア
 リマス、養家ニ入ラナイト致シマスレバ、サウ云フ利益ガアルマスケレドモ、
 又他ノ一方カラ考ヘテ見マスレバ、養子ニ對シテ餘所カラ嫁ヲ貰ツタ場
 合ニハ、ソレデ差支アリマセヌケレドモ、自分ノ家ノ一人娘デ、所謂家女ニ
 婿ヲ取ツタ場合ヲ想像シテ見ルノデアリマス、其時分ニ附イテ考ヘテ見マス
 ト云フト、養子ト其娘トガ他ニ去リマシタ時分ニ、其家ノ血統ガ絶エルト云
 フコトニナル、其子供ヲ養家ニ入レナイト云フコトニ法律デ定メルト、即チ
 養家ノ血統ガ絶エルト云フコトニナル、個人ノ方カラ申シマスレバ、利害相
 半バシマスケレドモ、苟モ血統ヲ重シ家ヲ重ズル上カラ申シマスレバ、修正
 ヲシナケレバナラナイ、サウシテ斯様ニ修正致シマスルト、其結果ハ矢張古
 來ノ習慣ニ適フノデアリマスシ、殊ニ我國體ニ一致致スコトデアラウト存ジ
 マス、唯斯ノ如ク修正致シマスレバ、戸籍法ダトカ或ハ國籍法ダトカ云フモノ
 ニ對シテ、多少ノ修正ヲ加ヘマセヌケレバナラナイ、斯ノ如キ法律ハ即チ此民
 法ノ人事編ト互ニ相關聯シテ居リマス、今其一例ヲ舉ゲテ見マスルト、國籍
 法ニ於キマシテハ、之ト相關聯シテ居リマス所ノ法律ハ、唯僅ニ第二條ノ第
 二項ニ過ギナイ、之ヲ此精神ニ依ツテ削除致シマスレバ差支ナイコトデアリ

マス、故ニ本員ハ此委員會ノ修正ノ通ニ可決セラレシコトヲ希望致シマスルガ、政府委員ハ此改正ニ附イテハ、私ガ先キニ利益トシテ述ベタ所ヲ主張シ、又他ノ法律モ修正ヲシナケレバナラナイト云フ如キ理由ヲ以テ反對ヲ致シマシタ、是ハ諸君ガ採否ヲ決セラレル上ニ於テ御參考ニナルベキ箇條デアリマスカラ、是レ亦共ニ申上ゲテ置キマス、ソレカラ八百十三條デ、第二款裁判上ノ離婚ト題シマス所デス、其條ノ第四號、之ヲ改正致シタイト云フノデ、四號ニハドウ云フコトニナツテ居ルカト申シマス、配偶者カ重禁錮二年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ、此原案ノ通ニ致シマスレバ、夫ガ強盜ヲ致シマシテ、サウシテ其處刑ハ三年ヲ超エマスレバ、妻カラ離別ヲ請求スルノ原因トナリマス、ケレドモ、減シラレテ三年以下ノ重禁錮ニナリマシタトキニ於テハ、縱令夫ガ強盜ヲ働キマスルヤウナ人物デアアツテモ、是ガ裁判上離縁ヲ請求スルノ原因トナラナイト云フコトデゴザイマス、原案ノ通ニ致シマスレバ、又妻ノ方ニ附イテ見レバ、妻ガ泥坊ヲスル、或ハ其他破廉耻ノ罪ヲ犯ス、ソレデモデス、三年以上ノ處刑ヲ受ケタ場合デナケレバ、離婚ヲスルコトガ出來ナイト云フコトナノデス、斯様ナコトハ、實際ニ於テ如何デアアルカ、夫婦トナリマシタ所ノ目的ニ於テ如何デアラウカ、又現在強盜ヲシタリ泥坊ヲスルヤウナ者ト夫婦トナツテ居ルコトハ堪エラレヌコトデアリマセウガ、人ニ依ツテハ、固ヨリ左様ナコトガアリマシテモ、夫婦ノ位地ヲ繼續スルデアリマセウケレドモ、二年以上デナケレバ離婚ノ原因トナラナイト云フコトニ規定致シテ置キマシテハ、其弊ト云フモノハ測リ知ルベカラザルモノデアラウト思ヒマス、故ニ此犯罪ノ性質ヲ大體上ニ於テ區別シテ見マスレバ、

賞テ行レタ所ノ律語ニ依ツテ言明セバ、破廉耻罪、泥坊トカ、詐欺トカ、強盜トカ、強姦トカ、サウ云フ種類ノ所謂破廉耻罪ハデス、縱令刑期ガ短クテモ、輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ、矢張離婚ノ原因ト爲リ、其他ノ犯罪即チ輕罪デ申セバ、官吏侮辱トカ、重罪デアレバ國事犯トカ云フモノハ、罪質ガマルデ違ヒマスカラシテ、矢張原案ノ如クニ三年以上此二様ニ區別致シマシタ、此修正ニ對シマシテハ、政府ハ異議ヲ唱ヘマセヌ、贊成致シテ居リマス、斯様ナ理由ニ依ツテ修正ヲ遂ゲマシタ、御贊成アラントヲ希望致シマス

(肥塚龍君「成文ノ朗讀ハナイデスカ」ト呼フ)

○藤澤幾之輔君(百七十七番) 修正文ハ諸君ノ方ヘ印刷ガ回ツテ居リマスレドモ、念ノメ然ラバ讀ミマス、第八百十三條中第四號中「配偶者ガ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ」トアリマスノヲ、配偶者ガ下ニ「偽造、賄賂、猥褻、竊盜、強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第百七十五條」第百七十五條ハ官ノ封印ヲ破毀シテ其物件ヲ竊取シタル如キモノ、第二百六十條「第二百六十條ハ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招集シタル者、即チ是等ニ揭ゲタル罪ニ依ツテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ云々、斯ウ云フ風ニ修正ヲスル、一體此文章ガ長クテ面白クアリマセウケレドモ、此種ノ事柄ヲ明カニ致シマスルニハ、列記法ヲ取ルヨ

リ方ニ仕方アリマセヌ、曾テ代官人規則ヲ改メテ辯護士法ヲ制定シタ時分ニ、矢張斯ウ云フ區別ヲスル必要ガアツテ列記法ヲ取ツタ例ガアリマス、即チ矢張斯様ナ列記法ヲ取リマスレバ、斯様ナ具合ニナリマス、此段共ニ……

○丸山嵯峨一郎君(二百七十一番) 今通告ガゴザイマスカ

○議長(片岡健吉君) 質問ナラバ宜シイガ、演説ナラバ、通告ノ順ニ依ツテ發言ヲ許シマス、山田喜之助君

(山田喜之助君演壇ニ登ル)

○山田喜之助君(四番) 本員ハ病後ヒドク咽喉ヲ痛メテ居リマスルカラ、御聽苦シイノミナラズ、聲ガ徹セヌダラウト存ジマス、御遠方ノ方ニハ趣意ガ貫徹致シ兼ネマスル、残念ナガラ已ムヲ得ヌコトデアリマスカラ、御容赦ヲ願ヒタイデアリマス、唯今議會ニ出テ居リマスル政府案即チ親族編相續編ノ二編ハ當議會中ニ於キマシテハ、最モ大ナル問題デアラウト思ヒマス、獨リ當議會ノミデアリマセヌ、縱令何等ノ議會デアリマシテモ、是ハ頗ル大キイ問題ト考ヘマス、隨分重大ナル問題デアリマシテモ、一時的ノ問題ガアリマス、併ナガラ本件ノ問題ハ勿論申スマデモナク、永久的ノ性質ヲ有シテ居ルモノデアアル、又重イ問題デアリマシテモ、局部的ノ問題ガアリマス、本問題ノ如キ勿論左様デハナクシテ、普及的ノ問題デアリマス、從來當議院ニ於キマシテ……

(恆松隆慶君「唯今ハ二讀會デゴザイマスカ」ト呼フ)

○議長(片岡健吉君) 一讀會ノ續デアリマス

(恆松隆慶君「全體ノ反對デスカ」ト呼フ)

○議長(片岡健吉君) 左様

(恆松隆慶君「各條ニ就イテノ修正ナレバ、二讀會ノ時ニシタラ宜イデセウ」ト呼フ)

○山田喜之助君(四番) 少數ノ箇條デ成立ツテ居ル議案ト云フモノハ、比較的ニ慎重ナル審査ヲ遂ゲマシタガ、浩澣ナル議案ト云フモノハ、寧ろ稍々輕忽ニ流レルカノ如キ憾ガアリマス、是ハ本員杯ノ残念ニ存スル所デアリマス、法律ニ於キマシテ、其重サ加減ヲ比較スルコト、若ハ貴重ノ程度ヲ比較スルト云フコトハ、困難ノ問題デアリマスガ、親族法相續法ノ如キハ、少シク法律ト皆サン方ニ於キマシテモ、異ナル御考ヲ御持チ下サルコトヲ希望スルノデアリマス、從來斯ウ云フ説ヲ主張スル者ガ往々アリマス、是ハ法律家ノ説デアリマセヌケレドモ、刑法ノ如キハ、少々酷デアアツタ所ガ、自分達ガ罪ヲ犯サヌ積リナラバ、ソレデ宜イ、始ヨリ惡事ヲセヌ積リナラバ、竊盜罪ガ二箇月以上デアラウガ、四箇月以上デアラウガ構ハヌ、或ハ詐欺取財ノ罪ガ二年以下デアラウガ、四年以下デアラウガ、因ヨリ自分ハ惡事ヲナサヌカラ、刑法杯ハドウデモ宜イト云フ説ヲ出ス人ガアリマス、又或ハ商法ノ如キモノニナルト、或ハ商法ノ一部分ノ保險法トカ云フモノニナリマス、商取引ニ關

係ノナイモノハ、實ハ冷淡ニ見テ居ル、或ハ又保險會社ニ關係ガアルトカ、自ラ被保險人ニナルトカ云フ、保險法ニ先ヅ自分ノ身ガ關係ヲ致シテ居ラヌカラト云フコトデアル、是ハ誤謬ノ說デハゴザイマスルガ、免ニ角我身ニ直接ニ觸レテ來ヌト云フコトニ附テハ、先ヅ一理アルコトデアリマス、即チ生レテガラ法ノ下ニ立寄ラヌデ濟ムコトガアリマス、諸君、サリナガラ親族編相續編ハサウハ參ラヌ、勿論申上グルマデモナク、此世ニ日本人トシテ生レテ出テ來タ以上ハ、生レタ其時ヨリ死スルマデハ片時モ離ル、コトノ出來ヌ、誰モ彼モ此支配ヲ受ケナケレバナラヌ、世ノ中ニ親ノナイ人ハアリマセヌ、又多クノ人ハ妻ガアリマス、妻ガアレバ多クノ人ハ子モアリマス、デ、是等ノ多數ノ國民ガ凡テ支配ヲ受ケナケレバナラヌ法律デアリマスカラ、他ノ局部的法律ト同視セラレテハ甚ダ國家ノタメ或ハ自己一身ノタメニモ都合ト思ヒマス、最モ刑法ト申シテモ、國家ノ公法デアルカラ、一個人ノ利害ニ關係スル法デアハナイ、又商法ト云ヒ、其他ノ法律ト云ヒ、何レモ社會的ノモノデアリマスガ、己ノ身ニ直接觸レヌト觸レルトハ、唯今申シタ素人論ト雖モ、尙ホ一理アリマス、ソコデ更ニ一步ヲ進メマスルト、此親族法相續法ノ如キハ、更ニ生レテカラ死ヌマデバカリデアハナイ、母ノ胎内ニ居ルトキデスラ規定シテアル、又遺囑ト云フテ死シテカラ後ノ效力ノ事マデ規定シテアルカラ、何人モ觸レル所ノ永久的普及的ノ法律デアルト云フコトハ、御香込ヲ願ハナケレバナラヌ、借テ法典ト云フモノハ、普通カラ申シマスルト、一種ノ平易ナル問題デアアル、ムヅカシイ問題デアハルガ、平易ナル問題デアアル、然ルニ我國ニ於キマシテハ、此法典ガ圖ラズモ條約改正ト云フ事ニ影響ヲ持ッテ來タノデアリマス、此事ハ無論申上ゲズトモ、皆サン御承知ノコトデ、法典ト云フモノヲ或ル意味ニ於テ完成セザル以上ト云フモノハ、條約改正ノ實行ト云フモノニ差響ヲ生ジテ來ル、故ニ既ニ民法ノ第一編第二編第三編ノ如キハ、始末ガ付イテ居ル、今此殘部ノ第四編第五編ト云フモノガ即チ問題デアリマス、本員ノ考ヘル所ニ依リマスルト云フト、元來法典ト云フモノハ、條約改正ニ關係ヲ有ツベキモノデアハナイノデアリマスガ、是ハ今更申シテモ詮ナイコトデアリマス、既ニ當局者ガ關係ヲ有シテ仕舞ツタ以上ハ、是ハ詮方ナイコト、言ハナケレバナラナイ、唯殘部ノ問題ガ親族編相續編ト云フモノガ條約改正ニ關係ヲ有タナケレバナラヌカ否ト云フノ問題デアリマス、本員ハ無論ハ條約改正ニ關係ヲ有ツ管ノモノデアハナイ、又有タシテハナラヌト云フノ論ヲ御參考マデニ御聽ニ達スルノデアリマス、諸君、法典ト申シマシテモ、初ヨリ極々定義ハナイノデアリマス、學者間ニ於キマシテモ、又歴史の二言ヒマシテモ、法典ト云ヘバ、是非是ダケノモノガナケレバナラヌト云フ極々モノガ、初ヨリアルノデアリマセヌ、若シ法典ト云フモノガデス、是ダケノモノガナケレバナラヌト云フコトニ、初カラ極々テアルモノデアリマスナラバ、各國ノ法典同一轍ニ出テ居ナケレバナラナイ譯デゴザイマスケレドモ、サウデアハアリマセヌ、是ハ申上グルマデモナク、各國ノ法典

ハ無論同一轍ニ行ッテ居ラヌ、其中ニ記載シテアル事柄ノ或ハ甲ノ法典ニ這入ッテ居ツテモ、乙ノ法典ニ這入ッテ居ラヌ、或ハ甲ノ法典ニ拔ケテ居ツテモ、乙ノ法典ニ繰込シテ居ルト云フヤウナ鹽梅ニ、法典ト唱ヘルモノニ、初ヨリ學問上ナリ習慣上ナリノ一定ノ範圍ト云フモノガアルノデアアリマセヌ、詰リ是ハ善意、常識、其國ノ歴史ト云フモノ、三ツヲ以テ極メルヨリ仕方ナインデアリマス、法典ノ完備シタル體裁ヨリ云ヒマスレバ、實ハ民法ト商法トノ區別ノアルモノデアハナイデアハナイデス、是等ノ學術ノ問題ハ、今此席ニ於テ申上グルハ皆様モ御迷惑デアラウト思ヒマス、唯其結論ヲ申セバ、民法ト商法ト云フモノガ區別サレテ居ルノハ實ハ一ノ習慣トカ或ハ來歴トカヨリ出テ來タ譯デアリマシテ、根元ノ性質ニ於テハ、民法ト商法ヲ一ノ法典ニ編纂シテ仕舞ツタガ、實ハ手際デアリマス、英米ニ於テハ法典ト云フモノハアリマセヌ、アリマセヌケレドモ、別段ニ民法商法ト云フ如キ區別モアリマセヌ、學者ガ唯民法トカ商法トカ云フコトガアルカモ知レマセヌケレドモ、ソレハ國法ニ於テ認メタ區別デアハナイノデス、サウシテ見ルト宜ウゴザイマスカ、法典ト云フモノニハ、即チ一定ノ範圍ガアル譯デアハゴザイマセヌ、何デモナイノデアリマスカラ、條約改正ニ法典ヲ必要トスルト云フコトニナリマスレバ、其法典ハ條約改正ニ必要ナル部分ダケ宜イト云フコトハ、自然ノ結果デアラウト思フ、即チ外國人ト條約改正ヲスルニ付イテ、外國人ガ法典ヲ編纂シロト云フコトヲ要求スルナラバ、其要求ハ外國人ノ便利若ハ安心ニナルダケノ範圍宜イ、ソレヨリ餘計ノモノヲ拵ヘル必要ハナイ、元來親族法相續法ト申シマスモノハ、内輪ノ法律デアリマス、是ハ世界的即チ「コスモポリチック」ノモノデアハナイノデス、商法ト云フ如キモノト甚ダ性質ヲ異ニシテ、商法ト云フガ如キモノハ、大抵今日普通文明國ト唱ヘラレテ居ル所デアハ先ヅ共通ノモノト見テ宜カラウト思ヒマス、併ナガラ、親族法相續法ト云フガ如キモノハ、共通ノ性質ヲ有ッテ居ラヌモノデアアツテ、是ハ内輪ノ法律デアアル、若シ國ト云フモノヲ家族ノ團體ニ比較スルナラバ、是ハ詰リ家内ノ法律デアアル、外國ノ御客様ニハ關係ノナイ所ノ法律デアアル、此事ハ本員ガ新發明ノ說デモ何デモナイ、又無論珍シイムヅカシイ話デモ何デモナイデス、今日世間ノ法理若クハ法律的習慣トシテ認メラレテ居ル所ノモノハ、何處ノ國デモ大抵サウデアリマス、唯箇條ニ少シバカリノ異同ガアリマスルケレドモ、英吉利デアラウガ、亞米利加デアラウガ、佛蘭西デアラウガ、獨逸デアラウガ、此親族法相續法ト云フモノハ、内輪ノ法律トシテ、外國人ニ關係ガナイ、假リニアルトシテモ、餘程微々タルモノデ、殆ド利害ノ關係ヲ以テ目スベカラザル程ノモノデアリマス、然ラバ、日本ノ立法官日本ノ政府ハ之ヲ如何ニ見テ居ルカト申シマス、矢張吾々ガ言フ通り、又吾々ガ言フ通りデアナイ、世界ノ法律國ガ認メテ居ル通、親族法相續法ト云フモノハ、内部ノ法律デアアツテ、外國ノ御客様ヲ當テニシタモノデアナイト云フコトハ、日本ノ法例

ニ於テ認メテ居ル、ソレハ外デアアリマセヌ、此帝國議會ノ案ニ出マシタル所
 ノ法例ト云フモノヲ御覽ニナレバ分ル、法例ノ第三條ニ於キマシテ、外國人
 ノ能力ト云フモノハ、其本國法ニ依ッテ定メタル、其外澤山法條ト云フ
 モノガアリマスルガ、之ヲ要スルニ、外國人ノ夫婦關係トカ、相續關係ト云
 フモノハ、各々其本國ノ法律ニ依ッテ定メタルデアリマス、故ニ英吉利人ガ
 日本ニ商賣ナリ貿易ナリ或ハ學術ナリ、何ノタメデモ宜イ、日本ニ來テ居リ
 マスルトキニ、其者ノ能力ヲ定メルトカ、其者ノ夫婦間ノ成立ガ正當デア
 トカナイトカ云フヤウナコトハ、何レモ皆本國タル英國法ヲ日本ノ裁判所ニ
 依ッテ裁判シテヤル、又佛蘭西人デモ獨逸人デモ同ジコトデアリマス、即チ
 外國人ノ能力身分婚姻相續ニ關スルコトハ、其本國法ヲ適用スルト云フノ
 ガ、宇内ノ通義デアッテ、日本ノ立法官モ其法律ヲ採用シテ、諸君モ既ニ御
 協贊ニナッタノデス、之ヲ反對ニ若モ日本ノ法律ヲ以テ——日本ノ親族法相
 續法ト云フモノヲ以テ日本ニ在留シテ居ル所ノ英米諸國ノ人間ヲ、其條規ノ
 下ニ當箱メヤウトスルナラバ、是ハ大變デス、彼等ハ非常ニ苦情ヲ持込シテ來
 ルニ違ヒナイ、何故ト云フト、習慣モ宗教モ凡テ違ッテ居ル所ノ英吉利人、
 佛蘭西人、獨逸人ガ商賣ニ日本ニ來タガタメニ、親族法ノ相續ノ事マデ日
 本ノ法律ニ從ハナケレバナラヌト云フコトニナッタナラバ、是ハ大變デ
 アッテ、無論日本政府モサウ云フ無法ナコトヲスルノデハナイ、法例ニ
 於テ其事ハシナイト認メテ居ル、(「モウ止メテラドウダ」「簡單」ト呼フ者
 アリ) 御靜ニ願ヒタイ、是ガ簡單デス、右様ノ次第デアリマスカラ、先
 ズ此法例ト云フモノ、規定ガ、當ヲ得テ居ルモノトシマス、親族法相
 續法ト云フモノハ、外國人ニ關係ガナイ、又外國人ガ是ニ支配サレテハ
 困ルノデアアル、無論外國人ト雖モ日本ニ歸化スルトカ、或ハ又日本ノ親族法
 ニ從ヒタイト云フ所ノ望ミノモノハ別デス、サウ云フ其己ヨリ取捨ノ道ヲ行ッ
 テ來ル者ハ別デス、サウ云フ取捨ノ道ヲ行ッテ來ナイ者ハ、日本ノ親族法
 相續法トハ無關係ノ人デアアル、ナゼ斯様ノ無關係ノモノヲ條約改正ノ條件ト
 シタカ、是ハ謂ハレノナイデアリマセウ、故ニ初ヨリ當路者ガ氣ガ附イテ居
 タナラバ、親族法相續法ヲ除イテ、既ニ他ノ法律ト云フモノハ、完成シテ
 居ルカラ、條約改正ヲ急イデ宜シイ、今日ノ如クダヅクシテ居ル必要ハナ
 イ、若シ氣ノ附カズシテヤッタコトデアラナラバ、自ラ氣カ附クカ、或ハ
 人が氣ヲ附ケテ吳レタナラバ、ソレヲ採用シテ、所謂正道ニ復スルガ當リ前
 デアル、必ズ己ノ非ヲ遂ゲナケレバナラナイト云フコトハナイ、確ナル筋ニ
 依ッテ聞キマシタニ、日本政府ト暹羅政府トノ條約ニ依リマシテ、暹羅政府
 ハ日本政府ニ向ッテ、治外法權撤去ノ條件トシテ、法典ヲ編纂スルト云フコ
 トヲ約束シテ居ル、然ルニ親族法相續法ト云フモノハ、之ヲ除クト云フコ
 トヲ申シテ居ッテ、日本政府ハ之ニ同意シテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ル、
 果シテ然ラバ、暹羅政府スラ正當ノ道ヲ取ルコトハ知ッテ居ッテ、日本政府
 ガ暹羅政府ノ提議ヲ容レテ正當ナルコトニ同意シテ居ルト云フコトハ、吾

實ニ日本政府トシテ適當ナル所置ヲシテ居ルト思フ、暹羅政府ニ對シテ適
 當ナル所置ヲシテ居ルノニ、他ノ諸外國ニ對シテ適當ナル所置ノ出來ヌト云
 フ筈ハナイ、余輩ハ敢テ當局者ノ失態ヲ咎メルノデアリマセヌ、何時ニテ
 モ氣ガ附ケバ直スガ宜シ、又直スコトノ出來ヌモノナレバ格別デアリマス
 ガ、斯ル事柄ハ外國人ニハ別段ニ何等ノ不利益ヲ與ヘルモノデハゴザイ
 マセヌカラシテ、異議ナク輒ク纏マルデアラウト、我輩ハ確信スル、若シ斯
 ル正當ナルコト又眞面目ナル當リ前ノコトスラ、日本外交官ハ其目的ヲ達ス
 ルコトガ出來ヌト云フナラ、日本外交官ハ實ニ不能デアルト云フコトヲ自認
 シテ居ルノデアアル、委員會ニ於キマシテ、我輩ハ會審司法大臣ニ聽イタコト
 ガアル、答辯ハ甚ダ要領ヲ得マセナシタケレドモ、斯ウ云フコトニ聞イタ、今
 山田委員ヨリ述ベタ所ノコトハ、至當デアアル、併ナガラ、如何セン其事ハ外國
 ニ掛合フニ附イテハ、三年四年ノ歲月ト云フモノヲ費シテ、ドウモ其間條
 約改正ト云フモノハ少クモ後レル、縱シヤ交渉ノ目的ヲ達スルモノトシテ
 モ後レル、又諸外國ニ於テハ、此事ヲ各々其國ノ帝國議會ニ掛ケテ協贊ヲ經ナ
 ケレバナラヌト云フコトヲ會審司法大臣ガ答ヘマシタ、併ナガラ、是ハ嘘デ
 アル、本員ハ斷シテ之ヲ嘘ト云フコトヲ憚ラナイ、何トナレバ、諸外國ト云
 テモ國ハ多イコトデアリマスガ、重ナル國ニ就イテ之ヲ見レバ、外國政府ハ
 斯ル事柄ヲ自國ノ議會ニ協贊ヲ求ムルト云フコトハナイ、詰リ議定書ト申シ
 マスルカ、何ト申シマスルカ、形ハ何デアルカ知リマセヌケレドモ、此法典
 ノ條件ト云フモノハ、條約ノ本文ニ記載サレテ居ル譯デモナク、又法典ト云
 フ事柄ヲ善意ニ解釋シテ見レバ、外國人ニ關係シテ親族法相續法マデモ編
 ナケレバナラヌト云フ必要モナイ、又前ニ申シマシタ通、法典ト云フモノ、
 範圍モ、初ヨリ極ツタモノデナケレバ、是ダケハ各國政府ノ當局者ト云フモ
 ノハ、己ノ力ヲ以テ取捨スルコトガ出來ル、必ズ其國ノ議會ニ諮ラナケレバ
 ナラヌト云フコトハアリマセヌ、斯ルコトハ、恐ラクハ會審司法大臣ガ嘘ヲ
 言ッタカ、各國ノ憲法ニ付イテ甚ダ不調デアツタト、本員ハ斷言スル、親族
 法相續法ト申シマスモノハ、先ヅ條約改正ヲ別ト致シマシテモ、諸君ノ御考ハ
 他ノ法律案ト少シ變ヘテ戴カナケレバナラヌ、吾々ハ政府委員ト云フ者ハ、善
 良ナル法律家ヲ以テ組織セラレテ居ルト云フコトハ、信ジテ疑ハナイ、先ヅ
 今日日本ノ法律家ト云ヘバ、政府委員デ恐ラクハ其人ヲ得テ居リマセウ、
 尤モ漏レタ人モアリマセウケレドモ、先ヅ得テ居ルト思ヒマス、政府委員ガ
 其處ニ居ルカラ、御世辭ヲ言フノデアリマセヌ、サウダラウト思フ、併ナガ
 ラ、諸君、此親族法ノ問題ト云フモノハ、法律問題デハナイノデス、單純ナ
 ル法律問題デハナイノデス、是ハ一國ノ社會道德經濟ニ關スル問題デアッテ、
 法律家ノミガ拮据クツテ濟ムト云フ問題デハナイノデス、編纂ハ法律家ガ致
 シマス、又體裁ト云フモノモ、法律家ガ作リマス、併ナガラ、中ニ嵌込ムベ
 キ事柄——内容デス、内容ト云フモノハ、法律家ニ任スベキモノデアリマセ
 ヌ、ソレハ重箱ヲバ三重ニシヤウトカ五重ニシヤウトカ云フコトハ宜シイ、

或ハ圓イ重箱トカ四角イ重箱トカ云フコトハ宜シイ、併シ中ニドウ云フモノヲ詰込ムカト云フコトハ、重箱ノ外形トハ關係ハナイ、法典ヲ三篇ニスルトカ五篇ニスルトカ云フコトハ、重箱ヲ三重ニシヤウカ五重ニシヤウカ或ハ四角ニシヤウカ六角ニシヤウカト云フコトデア、重箱ノ中ニ何ヲ詰込ムカト云フ問題ハ、單純ナル法律問題デナク、社會問題道德問題經濟問題其他諸般ノ問題ヲ籠メテ居ル、是ハ政府委員ガ善良ナル法律家デア、故ニ、社會問題經濟問題道德問題モ異議不都合ナク解釋ガ出來ルト云フコトヲ諸君ガ御信シニナツタナラバ、宛モ大工ガ良イカラト云フテ壁モ塗レ、バ屋根モ葺ケルト云フコトヲ信ズルト同様デス、著シキ誤謬ト云ハナケレバナラヌ、外國ノ例ヲ云フ必要モナイノデアリマスガ、併ナガラ、政府委員ハ隨分外國ノ事ヲ言フ人ミデアリマスカラ、一言言ヒマスルガ、日本ノ立法ト云フモノハ餘リ早過キルデアリマス、立法ト云フモノハ決シテサウ其輕忽ニ早クヤツテ除クベキモノデアハナイ、現ニ他國ノ例即チ日本杯カラ見レバ、先進國ト云ウテ居ル所ノ國ノ例ニ依リマスレバ、僅カ一箇條カ二箇條ノ修正スラモ、或ハ七年十年十五年ヲ費シテ居ルコトハ、唯デモ少シ外國ノ事ニ通ジテ居ル者ノ認ムル所デアリマス、然ルニデス、斯ル浩瀚ナル法律、四百何十條ト云フ法律ヲ短期ノ議會ニ提出シテ之ニ協贊ヲ與ヘロト云フコトハ、始カラ無謀デア、始カラ亂暴ナ仕業デア、之ヲ平タク云ヒマスレバ、政府委員ガ無識ナルガタメニ亂暴ナコトヲシテ居ルノデア、然ラズンバ議會ヲ九吞ニシテ居ツテ、斯ウ云フ仕業ヲスルノデア、何トナレバ、此四百何十條ト云フ法律ヲ如何ナル神通力ヲ以テスルモ如何ナル勉強ヲ以テスルモ其當否ト云フモノヲバ、言フコトノ出來ルモノデアハナイ、當否ヲ云フコトノ出來ナイト云フコトガ始カラ分ツテ居ルノニ、ソレニ贊成シロト云フコトハ即チ當否ヲ言ヘト云フコトハ、衝突シテ居ルノデア、斯ルコトハ常識アル者ノ言ヘルモノデアハナイ、常識ヲ外レタ仕事デア、ソコデ簡單ト云フ聲ガ出ルカモ知レマセヌガ、若シ世ノ中ノ事ガ簡單テ濟ムナラバ、此一言デ足リル、併ナガラ、我輩ニハ此一言デ以テ止メル譯ニハ行カナイ、如何ニ政府ガ常識ニ外レタコトヲシテ居ツテモ、吾ミハサウ政府カラ侮蔑サレル譯ハナイ、外國ノ立法ガ遅タトシテ運バサル所ノ例ヲ申シマスレバ、幾ラモアリマスガ、ソレハヨシマセウ、仕舞ヒマデ私ノ聲ガ續キサウモアリマセヌ、條約改正ト云フコトヲ別ニ致シマスルト、云フト今日親族法ヲ制定スルト云フコトハ、實ニ其時期ヲ誤ツタモノデア、言ハナケレバナラヌ、ソレハナゼデア、アルカト言ヒマスルト、法典ノ編纂ニ反對ヲ致シマスルト云フト、何カ人ガ頑固論者ノヤウニ言フ、又政府案ハ、コケ威シニ各國ノ法律ヲ澤山引ヒテアルカラ、如何ニモ文明ノヤウニ見エ、併ナガラサウデアハナイ、喜之助不似ト雖モ、サウ頑固者流デアハナイ、腹ノ中ニチヨシ鬚ヲ持ツテ居ラヌ、外貌バカリ洋服ヲ著ケテモ腹ノ中ニチヨシ鬚ヲ持ツテ居ル者ガ澤山居ル、ソレナ論者トハ少シク論者ガ違フカラ、政府委員ニ聞イテ貫ハナケレバナラヌ、先ツ親族法ヲ今

制定スルト云フコトニ附キマシテハ、從來ノ習慣ヲ採ラナケレバナラヌト云フコトハ、論ヲ俟タヌ、又歐羅巴ノ新主義トカ云フモノモ採ラナケレバナリマス、サリナガラ、何レノ邊マデ之ヲ採リ何レノ邊マデ之ヲ捨テルト云フコトハ、固ヨリ重大問題デアリマシテ、ナカノノ期月ノ間ニ之ヲ辨ズルト云フコトハ出來マセヌ、一例ヲ申シマスレバ、政府案ニハ隱居ノ制度ト云フモノガ採用シテアリマス、申スマデモナク隱居制ト云フモノハ、我國ノ習慣ニアリマス、併ナガラ、此隱居制ガ發達シタノハ、吾ミノ考デハ、色々原因モアリマセウケレドモ、其重ナルモノヲ索ネテ見レバ、封建制度ト云フコト、ソレカラシテ佛教其他哲學的ノ思想ヨリシテ、世ヲ厭フ所ノ主義即チ厭世主義ト云フモノガ勢力ヲ得テ、此隱居ノ制度ト云フモノヲ十分ニ發達セシメタモノト見ユル、故ニ本員等ノ考デハ、今日ノ隱居制度ナドト云フモノハ採用スベキモノデアナイト思フ、既ニ封建ト云フモノハ毀レテ、仕舞ツテ、吾ミ有難クモ立憲治下ノ民ト爲ッタノデアリマスカラ、最早封建的ノ遺物タル隱居ノ制度ナドニ戀々シテ居ル必要ハナイ、固ヨリ不平ノ餘リ、絶望ノ餘リ、世ヲ果敢ナミ世ヲ捨テントスル人ガアルカモ知レマセヌケレドモ、ソレハ社會問題ニウツチャツテ置イテ、宜シイ、法律ニ於テ佛教的哲學的ノ厭世主義ヲ保護スルニハ及バナシ、故ニ今日法律ヲ立テテ爾時期デアナイト云フコトハ、必シモ舊慣ヲ保存シタイカラ時期デアナイト云フノミデアハナイノデア、舊慣ノ中ニハ早クウツチャツテ仕舞ハナケレバナラヌモノガアル、又獎勵シテ行カナケレバナラヌモノガアル、是等ヲ今日法典ノ中ニ採用スルト云ヘバ、要ラザランモノニ聲援ヲ與ヘテ、將ニ亡ビナントシツ、アル習慣ナドニ活力ヲ與ヘルヤウニナル、故ニ法典ノ時期ニアラズト云フモノハ、新主義ノ注入ヲ不可ト爲ス所ノ頑固論デアハナイ、舊來ノ惡習慣杯ノ其餘勢ヲ止メシムルト云フコトモ、矢張恐ル、カラデア、諸君、凡テ立法ト云フモノハ、或ル部分ニ於テハ、法律ヲ結晶セシメテ固クナルモノデア、故ニ此點ニ附イテハ、親族法相續法ノミヲ批難スルコトハ出來マセヌ、サリナガラ今ヤ進ミツ、アル日本——封建制度ヲ脱シテ立憲治下ニアル吾ミガ、今此際ニ於テ舊慣古例ト云フモノヲ有難ク法典ヲ以テ保存スルト云フ必要モ亦無イ、ソコデ新主義ヲバ(簡單ト呼フ者アリ)民法ニ採用シテ居ラヌト云フコトハ、是ハ餘リ多イデスカラ省キマセウ、簡單ト云フ論者ニモチヨットハ花ヲ持タスガ宜イデスカラ——之ヲ要スルニ親族法相續法ト云フモノデ疑問ト云フモノガ多イノデアリマス、ソコデ茲ニ言ハウト思ヒマスルケレドモ、甚ダ咽喉ガ續キマセヌカラ、箇條ダケヲ以テ皆様ガ若シ參照ナサラント欲スルナラバ爲シテ戴キタイモノヲ舉ゲル、即チ本法ノ七百六十四條、七百六十五條七百三十八條、八百三條、八百五條、八百二十條ノ第二節八百八十八條、八百八十九條、八百九十條ト云フガ如キモノハ、非難ヲ免レヌ所ノモノデア、今之ヲ言ハント欲シマスルケレドモ、ドウモ殘念ナルカナ咽喉ガ續キマセヌ、併ナガラ、二言フベキコトガデアアルノデアリマス、即チ一例ヲ言ヒマスレバ、遺言ノ

方式ノ如キモノデアリマス、此法典ニ於キマシテハ遺言ト云フモノニハ式ガ定メテアリマス、斯クミミノ式ト云フモノニ據ラナケレバ、遺言ト云フモノハ其效力ガナイトシテアリマス、是ハ私ハ甚ダ陳腐ノ規定デアルト思フ、全體昔ハ儀式ト云フモノヲ尊シテ、儀式ハ尊バナクナリ、詰リ蒔繪ノ重箱ニ蒔蕪ヲ人ガ尊バヤウニナリマシテ、儀式ハ尊バナクナリ、詰リ蒔繪ノ重箱ニ蒔蕪ガ這入ッテ居ルヨリハ、折詰メニモット立派ナ料理ガ這入ッテ居ル方ガ宜イト云フヤウニ、儀式ハ段々人ガ尊バナクナッテ、花ヨリ團子ト云フ主義ニ文明ハ餘程促シテ行クノデス、ソコデ法律ノ事柄ノ羅馬法ノ沿革ヲ始メ諸般ノコトヲ御承知ノ方ハ御承知デゴザイマセウガ、儀式ト云フモノヲ去ッテ實行ニ就キツ、アルノガ、今日ノ有様デアアル、起草委員——政府委員ハ元來文明ノ人達デアアルノデセウガ、此遺言ト云フコトニ附イテ儀式ヲ定メタト云フコトハ、是ハ實ニ不當ナコトデアアル、デ、此遺言ニ儀式ヲ定メタト云フコトハ、全ク一人唯今申シマスル通、古代ノ人ト云フモノハ、儀式ヲ尊ムト云フ習慣ガアツテ、其遺リ物デアアル、是ガ一ツ、今一ツハ陪審制度ノ是ハ結果デアリマス、歐羅巴諸國ニ在ッテハ、陪審制度ト云フモノガ行レテ居リマシテ、事實ノ判決ト云フモノハ、裁判官ガ致サズシテ、陪審役ガ致スノデアリマス、ソコデ陪審役ト云フモノハ、裁判官ホド事ニ慣レテ居リマセウカ、事實ノ判決ヲ誤ッテハ困ルト云フノデ、色々事實ノ判決ヲ爲スニ附イテ、規則ト云フモノヲ設ケテアルノデス、デ、今日歐羅巴ノ法律ニ於キマシテ、事實ノ判決スルニ附イテ、人ノ之ヲ自由ニ任サズシテ、束縛シテ居ルト云フモノハ、陪審制度ニ直接若クハ間接ニ原因シテ居ラヌモノハ、殆ドナイト言フテモ宜シイノデアリマス、然ルニ幸ニ我日本ニ於キマシテハ、陪審制度ト云フガ如キモノハ、幸ニ採用セラレナカッタ、又日本人ノ淡泊ニシテ磊落ナル、サウ儀式トカ格式トカ云フコトヲヤカマシク申シマセウ、故ニ遺言證書ト雖モ諸般ノ事實ヨリ見テ、是ハ正當ノ遺言證書デアルト云フコトノ事實ノ確信ト云フモノヲ裁判官ガ腦髓ニ得レバ、ソレハ卷紙ニ書イテアラウガ、塵紙ニ書イテアラウガ、鉛筆デ書イテアラウガ、實印ヲ捺シテアルマイガ、認印ガ捺シテアルマイガ、ソレナコトニハ構ツタコトハナイ、正シイ遺言書デアルト云フ事實サヘ得レバ、ソレデ宜イ、無論政府委員ト雖モ此事ハ知ラヌノデハナイノデアリマシテ、千七百六條ニハドウ云フコトガ書イテアルカト云ヘバ、千七百六條ニハ矢張遺言ト云フモノハ、裁判官ガ確信ヲ得レバ宜イト云フコトニナッテ居リマス、然ラバ即チ此事實ト云フモノハ、政府委員モ矢張認メテ居ルコトデアアル、ソレカラ致シマシテ、形式ノコトハ別ト致シマシテモ、遺言ノ性質ニ附イテ、吾々日本人ト西洋人トハ餘程考ヲ異ニシテ居ル、之ニ附イテハ、吾々西洋主義ヲ少シク反駁セザルヲ得ナイノデアリマス、日本ニ於キマシテハ、遺言ト云フモノハ、諸般ノ目的ヲ持ッテ居ルコトモアリマセウケレドモガ、先ヅ訓誡ノ意味ヲ持ッテ居ル、人ノ將ニ死セントスルヤ其言ヤ善シデ、即チ將ニ死セントスル所ノ人ガ、己ノ家族妻子ヲ枕邊ニ集メテ、財産ノコトナ

リ、婚姻ノコトナリ、或ハ祖先ノ祀ノコトナリ、其他即チ訓誡的ノ言葉ガ遺言デアリマス、所ガ、歐羅巴流義ノ遺言ト云フモノハ、サウデナイノデアリマス、歐羅巴流義ノ遺言ト云フモノハ、詰リ單純ナル財產處分デス、單純ナル財產處分ト云フ意味ノ遺言ト日本流義ノ遺言トハ、餘程名ハ遺言デアッテモ其實ハマルキリ違フノデスナ、故ニドウ云フコトニナッテ居ルカト云フニ、日本ニ於テハ、遺言ト申シマスルモノハ、成ルベク多數ノ人ガ聽クコトガ本旨ニナッテ居リマシテ、例ヘバ親ガ死ヌトキニハ子、夫ガ死ヌトキニハ妻ハ勿論ノコト、親族マデモ集メテ多數ノ者ニ聽カスト云フノガ、遺言ノ本旨デアアル、又遺言ヲ致ス場合ニ於テハ、他人ハ立會ハズトモ、親族ノ者ト云フモノハ立會フノガ是ハ本旨デアアル、然ルニ歐羅巴流義ノ遺言ハサウデアリマセウ、元ト財產處分デアリマスカラシテ、是トハ正反對デアッテ、家族トカ妻子トカ云フ者ハ、立會人ト爲ルコトガ出來ヌノデアリマス、是ハ千七百四條ニハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ズト云フコトガ規定シテアリマス、其中ニハ子供、遺言者ノ細君、相續人ト云フガ如キ、最モ將ニ死セントスル人ニ近シイ關係ノ人ハ、遺言ノ立會人ト爲ルコトガ出來ナイノデス、是ハ歐羅巴流義ニ於テハ無論正當ナコトデス、何トナレバ、錢勘定バカリノコトデアリマスカラ、遺言ニ依ッテ關係ノアル者ガ立會フト云フト、遺言ヲ偽造スルトカ云フ虞レガアルカラ、先ヅ親父ガ長男ノミヲ立會ハシテ、遺言ヲスルトキニハ、何カ長男ノミガ己ニ利益ノアルヤウナ遺言ヲ拵ヘテ仕舞フト云フヤウナ虞ガアルト云フコトカラ、詰リ親族ト云フガ如キ血族ノ最モ厚イ者ハ、遺言ノ立會人ニナルコトハ出來ヌノデアアル、日本トハ正反對デアリマセウ、ソコデ法律ニ於テ規定スル所ハ、重ニ財產ノ關係デアリマスカラ、詰リ歐羅巴流義デモ場合ニ依ッテ差支ハアリマセウケレドモ、今日日本ニ於テ普通遺言ト稱ヘラレルモノ、精神ト、斯ク歐羅巴流義ト違ッテ居リマスル以上ハ、是等ハ採用スルカセヌカト云フコトハ、私ガドチラニ贊成スルト云フコトヲ申上ゲル必要ガナイ、之ヲ右ニ決スルカ左ニ決スルカト云フコトハ、何人デモ日本人ノ頭デ決スベキコトデ、法律家ノ決スベキコトデハナイノデス、法律ト云フ名ガ附ク以上ハ凡テ法律家ガ決セナケレバナラヌト云フノハ嘘デアアル、法律ハ法律デアッテモ、法律ニ規定スル事柄ハ當リ前ノ人ガ決セナケレバナラヌ、寧ろ法律家ヨリ三百ノ選良諸君ノ方ガ、之ヲ決スルニ適當ナル方ミデアアル、却ッテ吾々ノ如キハ多少外國ノ法律ヲ知ッテ居ルガタメニ、知ラズ識ラズ、ソレニ引込マレテ、或ハ適當ナル判斷ガ出來ヌカモ知ラヌ、却ッテ皆様方ノ方ガ適當ナル判斷者デアアル、其外法典ニ於キマシテ隱居ト云フコトガ認メテアリマスニ拘ラズ、隱居ノ財產制度ガドウ云フモノデアアルカト云フコトガ明白デアリマセウカラ、是等モ法律的ニ揚足ヲ取レバ——揚足ヲ取ルデハナイ、質問ヲ致セバ、實ニ適用上ニ困難ナ點ハ澤山アリマス、併ナガラ、右ノ如キ論斷ハ、當場所ニ於テハ甚ダ不適當ト思ヒマスカラ、是ハ申シマセウガ、ドウ致シマシテモ、是ハ私ガ申上ゲズニ置カレナイ事柄ガ茲

ニ一ツアリマス、ソレハ何デアルカト云フニ、免ニ角折角ニ出來タモノデア
ルカラ、先ツ發布シテ置イテ不便ヲ見タラバ、漸々ニ修正シテ行ケバ宜
デアハナイカト云フ論デアリマス、是ガ或ハ勢力ガアルカ知ラヌト思ヒマス
ラ、一言申シテ置カケレバナラヌ、免ニ角發布シテ置イテ、不便ヲ見附ケ
タナラバ、修正シテ宜イヂヤナイカ、折角出來タモノヲ廢案ニスルノハ、ド
ウモ惜シト云フ考ガアル、併ナガラ、是非非常ニ誤ラタ考デアリマス、ソ
レハ外デモゴザイマセヌガ、此親族法相續法ト云フモノハ、前ニモ申シマシ
タガ、他ノ法律ト異ナツテ居リマシテ、其關係スル所ト云フモノガ、極テ廣
ク、極テ緻密デアリマス、故ニ是ガ修正ノ業ト云フモノハ容易デナイ、例
ハ刑法ノ如キハ、詐欺取財ノ罪ガ重キニ失ストカ、輕キニ失ストカ云フ
ナラバ、其處バカリ修正スルコトハ出來マス、或ハ皇室ニ對スル犯罪ガ重
トカ輕イトカ云ヘバ、其處バカリ修正スルコトガ出來マス、又強竊盜ノ罪ガ
重キニ失ストカ、重キニ失シテ居ラヌトカ云フナラバ、其處バカリ修正スル
コトガ出來マス、比較的容易デアル、即チ局部修正ト云フモノハ容易デア
ル之ヲ病人ニ譬ヘテ申セバ、外科的治療ヲ施サウナモノデアアツテ、腫物ノ出
來タ所ヲ切ツテ、ソレヲ治療シタ所ガ何ノ差響キニナラヌト云フヤウナモノ、
然ルニ親族法ハサウハ行キマセヌ、養子ノ制度ガ一ツ惡ルイト云ツテ、其處
ヲ直サウトシマシテモ、蜘蛛ノ巢ヲ張ツタ如クニ、方々ニ聯絡ガアリマス
ラ、ナカノ之ヲ直スノハ容易デナイ、一旦拵ヘタモノハナカノ容易ニ直ス
コトガ出來ナイ、加之親族法ニ於テハ、法律家ノ所謂既得ノ權利ト云フモノ
生ズル、或ハ嚴格ナル意味ニ於ケル既得ノ權利デナイニ致シマシテモ、併
ガラ、既得ノ權利ニ似寄ツタモノヲ生ズルノデス、是ハ餘程吾々ガ重シナケ
レバナラヌコトデアリマセウ、人ガ既ニ得テ居ル權利ヲ安ニ取ツテ仕舞フ
云フコトハ、是ハ到底容易ニハ出來ヌコトデアリマス、例ヘバ、明治初年ニ
於キマシテハ、家督權利杯ト云フモノハ一向其考ヘガナイデ以テヤリマシ
ケレドモ、最早今日ノ如ク社會ノ秩序ガ立ツテ來マスルコト云フト、人ノ既得
ノ權利ヲ十分ニ重シナケレバナラヌ、例ヘバ、茲ニ相續ナラ相續ノ點ニ附
キマシテ、長子相續ト云フコトニ法律ガ極ツテ居リマスルナラバ、其法律ノ
行レテ居ルトキニハ、長子ト云フモノハ推定家督相續人タル既得ノ權利ヲ持
テ居ル、若シ之ヲ長男相續ト云フモノヲ、平等ニ大勢ノ子供ニ分ツノデア
ルト云フコトニ法ヲ變ヘマスルコト云フト、長子ガ持ツテ居ル權利ハ、其法
ノ改正ニ依ツテ奪レテ仕舞フノデアル、是ガ反對ニ改正シマシタ場合モ同ジ
コトデス、即チ相續ト云フモノハ、凡テノ子供ガ均一ニ相續スルノ方アル
ト云フノ長子ノミ相續スルノデアルト云フコトニ變ヘマスルモ、凡テノ子供
レテ仕舞フノデス、ソコデ「ベストライト」ハ、非常ニ重イモノデアリマシテ、
既得ノ權利ヲ失ハスコトハ、立法官ニ於テモ餘程思慮シナケレバナラヌコト
デアル、然ルニ親族法相續法ノ改正ト云フモノハ、ソレ等ノ事柄ニ絶大ナル

差響ヲ生ジテ來ルノデアリマスカラ、社會民人ノ幸福ヲ恰モ己ノ休戚ヲ見ル
ガ如ク見テ居ルナラバ、容易ニ是ハ手ノ出セル仕事デアハナイノデス、最早結
論ニ近クナリマスガ、暫ク御辛抱ヲ願ヒタイデアリマスガ、茲ニ我帝國議會
ニ於テハ法律ニ於テ一種ノ斷行論者ト云フモノガアル、是ハ外國ニハナイ斷
行論者デ、日本新發明デス、其斷行論者ト云フ者ハ、ドウ云フ事ヲ言フノカ
ト云フニ、ボアツナードガ起草シタ法典デアアツテモ今ノ政府委員ガ起草シ
タ法典デアアツテモ、法典デアリサヘスレバ、イツデモ斷行スルト、斯ウ云
フ、此人達ニハ法典ト云フ名前ガ有難イノデアアツテ、法典ノ中ニハ、ドンナ
事ガ書イテアルカ、ソレガ分ラヌ人達デス、ソレハ極メテ少數デ、此三百
選良諸君ノ中ニ僅カニ一人ダラウト思ヒマス、一二人ダラウトハ思ヒマス
ルケレドモ、宛モ法華宗ノ者ガドウ云フ意味カ分ラヌデ、南無妙法蓮華經
ガ有難イガ如ク、又門徒宗ノ者ガ何ノ事カ分ラヌデ、南無阿彌陀佛ヲ有難
ガ如ク、法典ト云ヘバ、隨喜ノ涙ヲ溢ボシテ、其中ニドンナ事ガアツテモ、
隨分斷行論ト來ル人モアル、或ハ甚シキニ至ツテハ、前ノ法典ニ贊成シタカ
ラ、今度モ贊成シナケレバナラヌマイト云フ人モアル、法典ヲ一種ノ約束ノ如
ク心得ヘテ居ル、併ナガラ、是ハ御覽ニナレバ分リマスガ、此ボアツナードノ
法典ト此法典トハ、餘程違ツテ居リマス、中ニ書イテアル事柄モ餘程違ツテ
居リマス、今ドレ程違ツテ居ルカト云フ簡條ハ指摘スルコトガ出來マセヌガ、
政府ヨリ出サレタ所ノ參考書ヲ見テモ、餘程變ツテ居リマス、シテ見ルト、宜
シウゴザイマスガ、ボアツナード法典隨喜ノ涙ヲ溢ボシテ斷行論ト云
テ、ソレト變ツタ規定デゴザイマシテモ、亦隨喜ノ涙ヲ溢ボシテ斷行論ト云
ヘバ、中ニ書イテアルノガ右ト書イテアツテモ左ト書イテアツテモ構ハズ斷
行論ト云フノデアアルカラ、是程愚ナ論ハナイ、内容ヲ見ズシテ法典ヲ有難ガ
ルト云フナラバ、モウ國ハ末デス、條約改正ト反對ノナカルベキ筈ノモノガ
反對ノアルガ如クニ、政府ノ當路者ノ見タノハ實ニ吾々ノ不幸デス、現ニ條約
改正ノコトニ附イテハ、井上伯毛手ヲ燒キ、大隈伯毛手ヲ燒キ、其他手ヲ燒
イタ者ガ幾ラモアリマスガ、併ナガラ、諸君、如何デゴザイマセウカ、是等
ノ元勳ニ對シテハ、氣ノ毒デアリマスケレドモ、吾々ハ是等ノ元勳ガ手ヲ燒
イタガタメニ吾々ノ面目ヲ全ウスルコトガ出來タノデアリマス、井上大隈案
ガ通過シマシタナラハ、吾々ハ外國裁判官ノ下ニ、今頃ハ棲息シテ居ラナケ
レバナラヌ、是ガ倒レタカラシテ、今日外國裁判官ト云フモノガナクテモ、
條約改正ガ出來ルヤウナコトニナツタノデアリマス、當時條約改正斷行論者
ガ勝ヲ制シタナラバ、吾々ハボアツナードガ制定シタ所ノ法典ノ下ニ支配サ
レナケレバナラヌ、諸君、何ト思召スカ知レマセヌケレドモ、稼穡アリ民人アツ
テ、四千年ノ間ノ歴史ヲ有シテ居ル日本人ガ、天下後世ノタメニデスナ
明治ノ日本人ガ天下後世ノタメニ外國人ニ作ツテ貰フタ所ノ法律支配サレ
ナケレバナラヌト云ヘバ、其時分ノ明治ノ法律家ト云フ者ハ顔色ガナイデア
リマセウ、又國民ト云フ者モ、實ニ顔色ガナイ、昔ベンザムガ露國ノタメニ

法律ヲ作テヤリタイト言フ所ガ、當時ハ實ニ文化ノ程度ニ於テハ、非常ニ低イ所ノ露西亞ニアツテモ、ベンサムノ要求ヲ斥ケタト云フコトヲ仄ニ聽イテ居リマス、當時條約改正斷行論者ガ破レタメニ、外國裁判ト云フモノガ免レタノミナラズ、外國法典ト云フモノモ免レタト云フ名譽ヲ今日マデ全ウシテ來タ、此法典ガ縱令行レルトシテモ、免ニ角吾々ハ吾々ノ先輩ナリトシテ友人ナリトシテ居ル所ノ日本人ノ法律家ニ捧ヘテ貫ツタ法典ノ下ニ浴スルノデアリマスカラシテ、ソレハ有難イノハ有難イデアアリマスルケレドモガ、今一步諸君ハ御進ミニナル氣ハアリマセヌカ、マ、一步デス、最早露國マデハ行ッテ居ル更ニ一步セバ道ニ臻ル——モウ一步セバ即チ道ニ臻ルデス、ソコデ是ガ條約改正ニ非常ナル妨害ヲ爲ストカ、何トカ云フナラバ、格別デゴザイマスガ、ソレハ前申上ゲマシタ通、一向妨害ハナサヌデス、要路者ガ爲ス積リナラバ實ニ一擧手一投足ノ勞デス、吾々ハ今ノ内閣ニ恩讐二ツナガラアリマセヌガ、併ナガラ若シ私ノ言ヲ政府ガ容レテ此掛合ヲ始メテ此期月ノ中ニ此掛合ガ満足ニ行ツタナラバ、實ニ今ノ伊藤内閣ハ井上大隈杯ノ能ハヌ事ヲ爲シタ、其上ニ親族法相續法等ヲ無法ニ發布セズニ、條約改正ヲ遂ゲタト云フマナラバ、實ニ有終ノ美ト云フモノハ、伊藤内閣ニ歸シテ、今政府大臣ハ此處ニ御出ニナリマセヌケレドモ、先刻私ガ談話室ニ於テ、伊藤總理大臣ニ其旨ハ告ゲテ置イタ、吾々別段ニ今日ノ内閣ニ恩讐ハナイガ、有終ノ美ハ今最早軍ニ一擧手一投足ノ勞ダ、軍艦モ出スニモ及バヌ、エライ事ヲスルニモ及バナイ、一擧手一投足ノ勞デ親族法相續法等ガ出來ナイデ、條約改正ガ出來ルノニ、ソレヲシナイト云フモノハ、甚ダ遺憾ナコトデアアル、斯ルコトヲ以テ行掛リトカ何トカ言フテ居ルトキデアハナイ、斯ウ云フコトヲ言フタデアリマス、諸君、實ニ此問題ト云フモノハ、重大ナ問題デアリマシテ、殊ニ私ノ如キ者ガ述ベマシタナラ、誠ニ下手デアリ信用モアリマセヌケレドモ、私ハ此政府案ト云フモノハ否決スベキモノデアアツテ、第二讀會ニ廻スベキモノデアナイト思ヒマス、何故ナレバ、是ハ修正ノ出來ルモノデアハナイ、四百何十條モアル、大キナモノヲ、此短期ノ議會デ修正スルト云ヘバ、暴ヲ以テ暴ニ易ヘルノデ、向フガヨツン匍匐ロニナツテ來ルカラ、此方モヨツン匍匐ニナツテ行クト云フ馬鹿ハナイ、政府ガ如何ナル無謀ナルコトヲシタ所ガ、議會ハ議會デ、ソレダケノ見識ヲ以テ行カケレバナラヌ、諸君、私ハ演壇ヲ降リル前ニ當ツテ、一言遺シタイト思フノハ、此問題ニ付イテハ、諸君ト云フモノハ、決シテ如何ナル運動ヲモ御受ケニナツタコトハアリマス、又如何ナル勸誘ヲモ御受ケニナツタト云フコトハゴザイマス、斯ル問題ノ大イナルニモ拘ラズ——小サナ問題デモ運動トカ勸誘トカ説得トカ云フモノガ流行ルノニ、斯ル大問題デアリナガラ、説得勸誘ト云フモノガナクシテアルト云フノハ、本員ハ堅ク信ズルノデス、正義ノ聲ト云フモノハ、明治ノ衆議院ニ何等ノ運動何等ノ勸誘ガナクテモ、ドレダケノ勢力ヲ以テ徹底スルカト云フコトヲ、天下後世ニ貽スノハ一ノ快談デアラウト思フノデス

○議長(片岡健吉君) 野澤武之助君

(野澤武之助君演壇ニ登ル)

○野澤武之助君(百三十番) 私ノ訥辯ヲ以テ諸君ノ清聽ヲ瀆スノハ甚ダ恐縮ニ存ジマスカラ、極テ簡短ニ唯一言申述ベマス、私モ特別委員ノ一人デゴザイマシテ此政府案ノ法例——民法修正案ノ大體ニ附イテ、速ニ決議ヲ望ム者デゴザイマス、此諸外國ノ法制史ヲ見マスルト、不文法カラ成文法ニ移ルト云フノハ、自然ノ順序デゴザイマス、始此人類ガ交通ヲ誠ニ稀ニシタ時分ニハ、法律ト云フモノハ殆ド必要ハゴザイマセヌ、自然ニ交通ガ頻繁ニナツテ參ルニ從ツテ慣習法ヲ生ジ、其習慣法モ段々積ミ重ナルニ從ツテ、是ヲ一編ノ法典ト致ス必要ガ生ジテ來タデアリマス、是ガ諸外國ノ法制史ノ順序デゴザイマス、デ、日本デモ昔ノ有様デ外國ト交際モナク、此東洋ノ天地ニ満足シテ居ツタ時分ニハ、格別此法典ト云フモノヲ作ル必要モ見ナイデゴザイマシタラウ、併ナガラ、維新ノ激變——此維新ノ激變ハ此社會ヲ殆ド根抵カラ改造シタト云ツテモ宜イ激變デ、外國ニモ稀ニ見ル所デゴザイマス、此維新ノ激變カラ致シマシテ、成文法ヲ作ル必要ヲ生ジマシタ、ソレデ政府ハ此明治ノ初カラ、頻ニ注意致シマシテ、完全ナル法典ヲ作ラウト云フコトヲ考ヘテ居リマシタコト、信ジマスル、殊ニ此近頃ニ至リマシテ、成文法ヲ編纂ノ必要ヲ見マシタノハ、諸君、御存ジノ通、内地雜居デゴザイマス、新ニ締結サレマシタ所ノ條約、此條約ガ履行セラレマス、内地雜居ヲ許スコトニナリマス、サウ致スト、外國人ト日本人トノ間ノ關係ト云フモノガ、非常ニ繁クナリマス、外國人ト日本人トガ親類ニナルトカ、或ハ外國人ト日本人ト遺産ヲ相續スルトカ云フコトガ、度々起リマス、其他ノ法律關係ニ於テハ勿論ノコトデアリマス、デ、斯ウ云フ時分ニ吾々ハ完全ナ法典ガナカッタナラバ、非常ニ不便ヲ感ズルト思フ、内地雜居ヲ許シナガラ、完全ナ法典ガナイト云フナラバ、吾々人民ハ實ニ危險ナモノト思フ、政府ガ新條約履行一年前ニ法典ヲ發布スルト云フノハ、寧ろ外國人ノ利益ヨリモ日本人ノ利益ヲ圖ツタモノデ、吾々ハ誠ニ適當ナ仕方ト思フデアリマス、之ヲ外國政府ノ條約此新條約履行條件ト致シ、新條約ノ條件ト致シタノハ、非常ニ適當ナコトト思フ、政府ノ失策デハナクシテ、却ツテ政府ノ一ツノ結構ナ仕方、適當ナ仕方ト思フノデス、ソレデ此法典ニ附キマシテハ、政府委員ノ説明モゴザリマシタカ、二十六年四月デゴザイマシタガ、法典調査會ヲ設ケラレマシテ此處ニモゴザル、政府委員其他日本ノ有名ナ法律家三百諸君ノ中ニハ、此法典調査會ノ委員タル人モゴザイマセウ、有名ナ法律家ヲ網羅シテ、古今ノ法例習慣其他外國ノ法例ニシテ我國情ニ適スルモノヲ集メマシテ、サウシテ斯ク數年間ノ研究ヲ積ンデ、此法典修正案ヲ作りマシタ、此法典修正案ニ附キマシテハ、吾々ハ十分信用ヲ措イテ宜シイモノト考ヘマス、此法典ヲ此度此議會ニ提出サレマシタニ附キマシテハ、色々之ニ附イテ、異議ヲ唱フルコトモアルヤウニ見受ケテ居リマス、其内最モ異議ノアル點ハ、短日月ノ間ニ斯ノ如

キ大部ノ法典ヲ議了スルコトガ出來ヌト云フノガ一ノ點デアリマス、ソレカラ是ハ前ニ申ス通、此外國ト取結シテ條約ガ履行セラル、ニ附キマシテ、内地雜居ガ必要ニナル、サウシテ前ニ言フ通法典ノ完備スルコト云フ必要ガアル、其必要ガアリマスカラシテ、已ムヲ得ナイコトデアリマス、殊ニ此議會ニ提出サレマシタ法典ハ既ニ昨年冬ノ議會ニ提出サレマシタノヲ、不幸ニシテ昨年冬ノ議會ハ解散ニナリマシタカラ、今日復タ再ビ此議會ニ提出スルコトニナリマシタガ、併ナガラ、吾々此日本人民トシテ、此法典ヲ昨年冬カラ今日ニ至ルマデ一讀スルノ義務ハアツタモノト見テ、宜カラウト思フ、諸君ハ私ノ申スマデモナク、十分研究セラレタコト、考ヘマス、デ、此議員ノ多數ノ意見ハ、私ノ考ヘマスニハ餘程此法典ヲ速ニ議決スルコト云フコトニ傾イテ居ルト思ヒマス、何故ナラバ、前ニ此法律適用ノ大原則ト申ス法例ヲ一瀉千里ノ勢ヲ以テ議決致シマシタ、之ヲ以テ見ルト、民法モ速ニ議決サル、コトハ、此衆議院一般ノ意向デアラウト思ヒマス、ソレカラ尙ホ一ツノ點、此親族編ト相續編ハ除イテモ宜カラウト、外國トノ條約ヲ履行スルニ附イテ親族編ト相續編ヲ何ニモ今發布スル必要ハナイト云フニ附イテ、私モ司法大臣及政府委員ノ説明ヲ聽キマシタガ、此説明ニ依ルト新條約履行ノ點ニハ、此二件ヲ含シテ居ル、是ハ全クソレニ違ヒナイト申スコトデ、サウスルト今日ニ於テ此親族編ト相續編ヲ除クト云フ譯ニハ行クマイ、十分敏腕ナ外交家ガアツテモ出來ナイト思ヒマス、ソレカラ又親族編相續編ハ外國人ニ關係スルコトハナイカラ、之ヲ除イテ差支ナイト云フ御説ガアルノデゴザイマス、成ル程此親族編相續編ハ他ノ編ト比ベマス、外國人ト關係スルコトガ少イノデゴザイマス、併ナガラ、全クナイト云フコトハナイノデ、ソレノミナラズ、隨分ハ利害ヲ感ズルコトデアラウト思フ、例ヘバ前ニモチヨット申シタ通、外國人ニ日本人ノ遺產ヲ相續スルトカ、或ハ外國人ト日本人ト親族ノ關係ヲ結ブト云フ時分ニハ、此親族編相續編ノ必要ヲ感ズルノデゴザイマス、斯ウ云フ關係ガアル時分ニ、此親族編相續編ヲ發布シナイデ、サウシテ此外國人ハ内地雜居外國人ノ内地ニ入ルコトヲ許シマス、ソレニ附イテ損害ヲ受ケルノハ外國人デナクシテ、寧ロ吾々日本人デアアル、政府ノ此相續編親族編ヲ發布スルト云フノハ、外國人ノタメデアリナイ、日本人ノタメデアアル、ソレ故ニ縱令此政府ガ條約履行ノ條件トシテ此親族編相續編ヲ發布シナイトシタ所ガ、斯ウ云フ條件ヲ附ケナカッタトシタナラバ、吾々ハ寧ロ親族編相續編ノ發布ヲ望ムノデアリマス、唯今今日敏腕ナル外交家ガ出テ親族編相續編ヲ除イテ十分條約ヲ履行スルコトガ出來ルトシタナラバ、私ハ寧ロ此說ニ贊成致サズシテ、親族編相續編ヲ議決スルコトヲ主張スル者デゴザイマス、況ヤ此條件ガ既ニ外國ニ與ヘラレタ今日ニ於テハ、是非トモ親族編相續編ノ通過ヲ望ミマス、諸君モ御存シノ通條約改正ハ吾々人民ガ明治ノ初年カラ今日ニ至ルマデ熱心ニ願フタコトデ、之ガタメニ、政府ハ頻ニ此條約改正ヲ急イデ居リマシタケレドモ、度々諸君テ度々失敗シテ、トウク近年ニ至ッテ、

初テ締結致シタノデゴザイマス、所ガ既ニ締結セラレタ今日ニアツテ、此折角結シタ條約ヲ延期スルヤウナコトガアリマシタナラバ、實ニ日本ノ面目ヲ瀆スコトデ、吾々ハ外國人ニ對シテ面目ヲ失スル譯デアリマス、故ニ苟モ愛國ノ精神ヲ有ッテ居ル吾々日本人ハ、此親族編相續編ヲ議決シナケレバナラヌモノト思ヒマス

○恆松隆慶君(百九番) 大體ニ就イテ反對ノ申込ガゴザイマスカ

○議長(片岡健吉君) アリマス、平岡萬次郎君

(平岡萬次郎君演壇ニ登ル)

○平岡萬次郎君(百七十五番) 諸君、本員モ不精デハゴザイマスルガ、敢テ此場ニ臨ンデ演説ヲシナケレバナラヌト云フコトニナリマシタノハ、議場内外ノ形勢ヲ見マスルト云フト、此親族相續編ノ一編ハ一瀉千里ノ勢ヲ以テ、將ニ通過セントスルノ有様デゴザイマス、本員ハ國家ノタメニ甚ダ之ヲ憂フルノデゴザイマス、唯今贊成論者ハ此法典ガ新條約ノ實施ノ條件トナツタノハ、大變適當ナ處置デアアル、斯ノ如キコトヲ言フマシタガ、是ハ大イナル間違ヒデアラウト考ヘマス、已ムヲ得ズ、是ヲ新條約實施ノ條件トナツタモノデアアルノデゴザイマス、苟モ獨立國タル以上ハ、立法ノ權ニ他ノ方カラシテ彼此言ハル、ガ如キコトヲシテ、ソレヲ適當ノ處置ダト云フコトハ甚ダ聞エヌコト、思フ、是ハ已ムヲ得ヌ次第ト存シマス、果シテ已ムヲ得ヌコト、スルナラバ、飽クマデモ權利ノアル所ハ主張シテ此已ムヲ得ヌ事情ヲ取除ケナケレバナラヌト考ヘマス、デ、ソレヲ取除ケル所ノ理由ト云フモノハ、十分アルノデゴザイマス、彼ノ公文中ニ謂フ所ノ「法典」ト云フコトハ、嚴正ニ解釋スルト云フト、裁判所構成法ノ如キハ、此中ニ這入ッテ居ラヌノデゴザイマス、併ナガラ、條約實施ノ曉ニハ、治外法權ヲ撤去スル其タメニ、權利ノ確保裁判組織ノ健全ト云フモノヲ求ムルガタメニ、斯ノ如キ裁判所構成法ノ如キモノモ、矢張法典ト云フ中ニ含マセテ、是非此事ト云フモノハ、十分ノモノデナケレバナラヌト、彼ハ要求致スデゴザイマス、此要求ト云フモノハ不當トハ信ジマセヌ、是ハ法典ト云フモノヲ嚴正ニ解釋セズシテカラニ、其法典ト云フコトヲ精神ニ依ッテ意譯シテ、斯ノ如ク解釋スルモノデゴザイマス、サレバ我國ノ方ニ於キマシテモ、其正反對デマルデ法典ト云フ中ニ相續編及親族編ト云フモノガ這入ッテ居ルモノトシテモ、是等ハ外國人ニ關係スル所ガアルカ、少シモ關係スル所ガナイカラシテ、是等ハ宜シク其中カラ法典ト云フ中カラシテ取除ク、即チ法典ト云フ文字ノ中ニ含マヌモノト解釋スルノガ至當デアラウト思フ、一方ニハ這入ッテ居ラヌモノデモ這入ッテ居ルト解釋シテ來ルカラ、斯ノ如ク關係ナイ所ノ法律ハ這入ッテ居ラヌト云フコトヲ主張スルガ當然ノ事デアラウト考ヘマス、然ラバ此條約ト云フモノヲ實施スルニ附イテ、法典ト云フモノハ全ク無關係ノモノト云フコトガ出來ル、親族編相續編ト云フモノハ、法典ノ中ニ含ンデ居ラヌト云フコトヲ主張スルニ附キマシテ、少シモ差支ナイコト、本員ハ信ジマス、倍テ此法典ノ然ラバ善惡ト云フモノハ、唯單ニ其實質ノミヲ見テ、

我國ノ民情習慣ニ適シテ居ルヤ否ト云フ所、此點ノミヨリ反對シテ宜シト考ヘマス、所ガ、前論者ハ有名ナル所ノ法律家等ガ寄ツテ拵ヘタモノデア
ルカラシテ、決シテ是ヲ彼此レ非議スルニハ及バヌ、十分ニ信ヲ置イテ之ヲ
通過セシムル方ガ宜カラウ、斯ウ云フコトデアリマスルガ、若シモ釋迦基督
ヲレ以上ノ人ノ作ッタモノナラバ、十分信ヲ置キマスルケレドモ、吾々ハ決
シテ法典調査會諸君ヲ信用セヌノチヤゴザリマセヌ、法學博士トシ、我國ノ
先輩トシテ、經驗アル人トシテ十分尊敬ハ致シマスルケレドモ、是ニ盡ク信
ヲ置イテ是等ノ人ノ作ッタコトニ附イテ誤リナイトマデ信用ヲ置クコトハ
出來ヌノデゴザリマス、此三百選良ハ、全國カラ集マツテ全國ノ慣習ヲ十分調
ベタ者デアル、調ベナクテモ三百選良ノ考ヲ集メルナラハ、全國ノ事情ト云
フモノハ、明瞭ニ分ル、是等ガ此法典ト云フモノヲ調査スルニ付イテハ最モ適
當ナモノデアル、又是非調査ヲスル任ニ當ナケレバナラナイ、是ヲ唯ダ盲從ス
ルト云フガ如キコトガアツタナラバ、立法權ヲ自ラ棄テルモノデアアツテ、甚ダ
不都合ナモノデアラウト信シマスル、御承知ノ通り、西洋ハ個人主義デア
我國ハ家族制デアリマスルガ、此家族制ト云フモノハ、實ニ忠君愛國ノ思想ヲ
養成致シマスルモノデアアツテ我國ガ萬國ニ卓越シテ美風ヲ存スルト云フモノ
ハ、此制度ノ賜モノデアアルノデゴザリマスル、然ルニ今度出來マシタ所ノ親
族相續ノ二編ト云フモノハ、大イニ此家族制ト云フモノヲ破壊スル所ノ規定
ガ多分ニアルト信シマスルト云フノハ、一家ニ於テ親權ト戸主權ト兩立セシ
メタ如キハ、家族制ヲ破ル所ノ原因ニナラウト思ヒマスル、又扶養ノ義務ヲ
受ケル者ノ其順序ヲ附ケタ如キ、例ヘバ親ト子ト妻トアル場合ニ於テ、親ヲ
第一ニ——若シ其扶養ノ義務ヲ悉ク盡スコトガ出來ナカッタナラバ、子ヤ妻
ヲ棄置イテモ親ヲ養ハナケレバナラヌト云フガ如キ、又妻ハ棄テ置イテモ
子ヲ養ハナケレバナラヌ、兄弟ヲ棄置イテモ其子ヲ養ハナラヌト云フコト
ガアツタナラバ、一家團圓ノ親ミノ中ニ於テ、丁度破裂彈ヲ投ジタヤウナモ
ノト考ヘマスル、是等ト云フモノハ、自然ノ愛ニ依ツテ集マツテ居ルモノデ
ゴザイマスルカラ、ソコニアル所ノ資産ト云フモノヲ以テ、共ニ食ツテ若シ
之ガ盡キタナラバ、共ニ乞食ニデモ出ルト云フガ如クスルナラバ、自然ノ愛
情ヲ保ツテ行ク道デアラウト思ヒマス、法律ヲ以テ是マデナイ所ノ斯ノ如キ
規定ヲ造ルノハ益々家族制度ヲ破ル所ノ原因ト爲ルデアラウト信シマスル、
又別有財産ノ制ヲ餘程盛ニシテアリマスガ、是等モ矢張家族制度ヲ滅殺ス
ル所ノ一ツニナラウト考ヘマス、其傍ニ次男三男ニ物ヲ分ツト云フコトハ認
メテゴザイマセヌ、又子女ノ嫁入支度ヲシテアルト云フコトハ認メテゴザリ
マセヌ、斯ノ如ク是マデアツタ所ノ慣習ヲ破ツテシマツテ、他ニ別有財産ヲ拵
ベルト云フ制度ヲ盛ニスルガ如キハ、家族制度ヲ滅ボス所ノ方法デゴザリ
マスル、自然ニ家族制度ト云フモノガ破レテ行クナラバ、決シテ之ヲ惡ルイ
トハ考ヘマセヌ、自然ノ成行キニ任シテ行クデアリマスカラ、吾々ハ決シテ
不都合トハ考ヘマセヌガ、法律ヲ以テ此勢ヲ激成スルト云フコトハ、甚ダ不都

合デアラウト信シマスル、斯ノ如ク我國ノ慣習ニ背イタ所ノ法律ヲ今日施カ
ナケレバナラヌト云フ所ノ必要ガアルカ、條約實施ト云フモノニ關係ガナイ
ト見ルナラバ、之ヲ施ク所ノ必要ハ少シモナイデアアル、之ナクトモ條約ト云
フモノハ實施スルコトガ出來ルノデゴザリマスルカラ、斯ノ如キ缺點アル所
ノモノハ宜シク此議會ニ於テハ否決ヲ致シテ、尙ホ十分ニ審議ヲ盡シ、國情習
俗ニ十分適スルヤウナル法律ヲ設ケテ、之ヲ天下ニ施クト云フコトニナリマ
スルナラバ、國家ニ於テ害ヲ受ケルト云フコトハゴザイマセヌ、此儘ニ實施
ヲシタナラバ、吾々ハ三千年來行ツタ所ノ慣習ヲ破壞シテ仕舞ツテ親族ト云
フ親シキ中へ破裂彈ヲ投込ミタルト同様ノコトガ來ルデアラウト考ヘル、
是等ハ著シイ所ノ缺點デゴザリマスルケレドモ、各條ニ互ツテ評シマスレバ、
非常ニ澤山缺點ガアリマスルデゴザイマス、是ハ山田君カラ詳シク云ハレマ
シテゴザイマスルガ、若シ此法ヲ施カレタナラバ、各人ハ非常ノ迷惑ヲ蒙ル、
彼ノ遺言ヲ爲ス場合ノ如キ、最モ著シキ例デアラウト考ヘマス、其他彼ノ親ガ
子ヲ懲戒場ニ入レルト云フコトガゴザイマスルガ、是等ハ教育上カラ論ジテ
非常ニ不都合ナル規定デアラウト考ヘルノデス、社會ノ人ノ多數ナル、決シ
テ一律ヲ以テスルコトハ出來ナイ、中ニハ隨分度ヲ外レタ人間ガ出ルデアリ
マスガ、之ヲ懲治場ニ入レテ、盡ク同一ノ範圍内ニ入レテ其人ヲ懲治シヤウ
ト云フコトニナルト、甚ダ不都合デアラウト考ヘマス、若シサウ云フコトヲ
スルナラバ、狂人ナドヲ非常ニ澤山出スヤウナコトニナルト考ヘマス、私共
ノ考デハ、元トアツタ所ノ勸當ノ制ハ幾ラカ變ヘナケレバナリマスマイ
ガ、復活セシメテ、而シテ此ノ如キ懲治場ニ入レナケレバナラヌト云フヤウ
ナ人物ガ出マシタナラバ、之ヲ懲治場ヘ入レズシテ放逐スル、果シテ然ラバ
千百人ノ中一人ノ此中ヨリ豪傑ガ出テ來ルト云フコトノナイヲ保セラレヌト
考ヘマス、然ルニ之ヲ窮屈ナ斯ウ云フ所ヘ入レルト云フコトハ、是ハ大イニ
考ヘナケレバナラヌコト、考ヘマス、親デモ隨分一時ノ怒ニ乘ジテ、此ノ如
キ懲治場ニ入ル、ト云フヤウナコトヲ隨分致サウト考ヘマス、本員ハ尙ホ多
分ニ缺點ハ知リマセヌケレドモ、詳シキコトハ山田君カラ述ベラレマシ
タカラ、以上ノ如キ理由ヲ以テ本案ニ反對致シマス、諸君ノ御贊成アラント
ヲ希望致シマス、

○恆松隆慶君(百九番) 段々反對演說モアリマシタガ、マダ申込ガアルデア
リマセウガ、吾々ハ大體ニ附イテ贊成スル者デアリマスカラ、直チニ二議會
ヲ開カレンコトヲ希望シマス

○議長(片健岡吉君) 鳩山和夫君

(鳩山和夫君演壇ニ登ル)

○鳩山和夫君(二百四十番) 私ノ諸君ニ聽イテ戴キタイコトハ、極テ簡單デ
ゴザイマス、問題ハ大デアリマスケレドモ、此問題ハ諸君ガ今日初テ耳ニ入
レラレタ所ノ問題デハナクシテ、先年法典斷行延期ノ二ツノ議論ガ世間ニ現
ハレタトキカラ、諸君ハ既ニ此問題ハ研究セラレタデアアル、而シテ本議會ニ

政府が此案ヲ提出シマシテカラモ、最早既ニ數日ヲ經テ居リマスカラ、其間ニ諸君ハ十分研究セラレテアルノデアアル、是ニ於テ簡條々々ニ就キマシテ、長イ演說ヲスル必要ハナイ、要點ノミヲ掲ゲマスレバ、諸君ハ直チニ了承セララルト云フコトハ、私ハ信ジテ居ル、山田君之助君並ニ平岡萬次郎君ハ反對ノ演說ヲセラレマシタ、而シテ此山田君之助君ノ演說中反對論トシテ値打ノアリサウナ所ハ、誠ニ僅カデゴザイマスルガ、區別ヲ立テ、見マスルト、第一ニ山田君ハ此問題ハ重大ナル問題デアアルト云フコトヲ言ハレテ、重大ナル問題ノ理由ハ詳シク言ハレマシタガ、ソレハ私モ同意デ、甚ダ重大ナル問題デアアルト考ヘマス、諸君モ皆御同意デアアラウト考ヘル、併シ問題ガ重大デアアルト云フコトハ、反對ノ趣意ニハ勿論ナラナイ、第二ニハ、山田君ハ改正條約實施ト法典ノ關係ヲ述ベラレマシタカ、山田君ノ此點ニ於ケル結論ハ、斯ウデアアルヤウニ私ハ信ジテ居ルト聽取リマシタ、法典實施即チ本日議題トナツテ居ル親族編並ニ相續編ガ改正條約ヲ實施スルニ附イテノ條件ニナツテ居ルト云フコトハ、山田君ハ認メテアル、併ナガラ、是ハ外交上ノ談判ヲ以テ其條件ノ中カラ政府ガ取除キ得ルモノ、デアアルト、山田君ハ信ゼラレルト云フコトニ、私ハ聽取リマシタ、既ニ此親族編並ニ此相續編ガ改正條約ノ實施ノ條件ニナツテ居ルト云フコトデアアルナラバ、其條件ハ是ヲシタノガ善イカ悪ルイカト云フコトハ、今日此處デ議論スベキ問題デナイト考ヘマス、私ハ寧ろ惡ルイト云フ論ニ同意ヲスル積リデアリマス、初ニ此問題ガ起ツタナラバ、親族編相續編ノ如キハ、外國人ニハ關係ノ薄イモノデアアツテ、直接ノ關係ハ殆ドナイモノデアアル併シ間接ニハ幾ラモ關係ガアル、是等ノ問題ハ條約實施ノ條件ト爲サヌノガ正當デアアルト私ハ信ジマス、其論ニハ直ク贊成スル、併ナガラ今事實ガ是ハ既ニ條約ヲ實施スルノ條件トナツテ居ルト云フ事實ヲ認メマス以上ハ、其事實ノ上カラ論斷シナケレバナラヌト考ヘルデアアル、サウスルト隨分吾々ガ輒ク外交上ノ談判ヲ爲シ得ルト信ズル所ノ事柄ヲ伊藤内閣ニ拘ラス、從來ノ日本政府ガ外交上ニ爲シ得ナイト云フコトハ、諸君ガ皆御承知デアアラウト思フ、私ハ山田君ト議論ガ違フ、山田君ハ一擧手一投足ノ勞ヲ以テ、此條件ノ中カラ此二編ハ引去リ得ルト云フ御論デアリマスルガ、ソレハ人ニ依ルコトデアアツテ、伊藤内閣ニハ私ハウシナコトハ出來ナイト信ジテ居ル、サウ云フ私ノ觀察デアリマスレバ、改正條約ヲ來年カラ實施スルト云フ覺悟ヲ止メテ、實ニ是ハ重大ナル問題デアアル、サウシテ且ツ不完全ナル法律デアアルカラ、斯様ナ不完全ナル法律ヲ來年カラ實施サレテハ堪ラヌカラ、改正條約ノ實施ハ二年延ビヤウガ三年延ビヤウガ、或ハ五年延ビヤウガ、即チ無能ノ政府ガ止メニナツテ吾々之ニ代ッテ外交ヲ造ルトキマデ延ベヤウカ、ソコマデノ覺悟ヲシタナラバ、私ハ山田君ニ贊成スルコトガ出來ル、併ナガラ、今ノ伊藤ヲ其儘ニシテ置イテ、此人ニ外交ノ談判ヲ以テ此二編ダケハ取除イテ下サイト云フヤウナ注文ヲスルノハ、ソレハ少シ御無理ヂヤナイカト思フ、ソレカラ第三ニハ、山田君ノ御論ノ中デ、政府委員ト言ハレタノハ、詰リ法典調査會委員

ト云フ意味デゴザイマセウガ、法典調査會委員ノ人ハ學者デアアツテ信用ヲ措ク法律家デアアル、併ナガラ、此問題ハ獨リ法律家ノミニ恣ニスベキ問題デハナクシテ、德義ノ問題モアル、經濟ノ問題モアル、ソレデアアルカラシテ、法典調査會ノ委員ニエライ學者ガアツタカラトモ、ソレデア學者ヲ丸呑ニスル譯デアナイト云フヤウニ聽取リマシタガ、至極御同感デアアル、私モ此問題ハ法律家ト云フ技術家ノミニ託シテ置クベキ問題デアナイト信ジテ居ル、即チ社會ノ人情モ觀察シ得ル能力ヲ持ッテ居ル人デナケレバイカヌ、經濟ノ觀察モアル人デナケレバイカヌト考ヘル、而シテ之ガ法律ニナルマデニハ、ソレ等ノ人ノ手ヲ經テ、而シテ後ニ法律ニナルト云フコトヲ私ハ信ジテ居ル、法典調査會委員ガ原案ヲ拵ヘテ來タ、諸君ハ之ヲ二十七名ト云フ多數ノ委員ニ付託シタ、諸君ノ中ノ粹ヲ抜イタ私モ其中ニ入ッテ居リマスガ、立派ナ二十七人ノ委員ニ付託シテ、是等ノ人ガ日々研究シテ、審査ヲ盡シテ、而シテ初テ此案ガ唯今諸君ノ議題トナツタノデアリマス、諸君ガ又議セラレ、ノデアアルカラシテ、ソレハ法律家ト云フ技術家ノ手モ經、財政ニ通シテ居ル人ノ手モ經、社會ノ發達ニ通ジテ居ル人ノ手モ經テ、而シテ後ニ法律ニナルノデアリマスカラシテ、法典調査會ノ委員ト云フモノガ、ドウ云フ人カラ成立シテ居ツタカラシカ、ソレナモノハ極ク薄イ問題ヂヤナイカト思フノデゴザイマス、尙ホ此前ノ續キデゴザイマスカラ、言ッテ置キタイト考ヘマスノハ、現在ノ日本ノ有様ガ此立法ヲ要スルト云フコトヲ私ハ一言申シテ置キタイ、唯一例ヲ取ツテ見レバ、夫婦ノ關係ヲ取ツテ見テモ、從來ノコトヲ——幾ラ從來ノコトヲ好ム山田君、或ハ其他ノ諸君デモ夫ガ妻ニ三行り半ノモノヲ以テ離縁狀ヲ渡シテ、サウシテ夫婦ノ關係ヲ絶ツト云フヤウナ簡單ニ下女ニ暇ヲヤルヤウナ遣リ方ヲ、尙ホ保存シテ置クベキモノデアアルト云フ御論ハナイト思ヒマス、此法典ガ離婚ニ附イテハ妻ガドウ云フヤウナコトヲシタ場合ト云ウテ、何條デゴザイマシタカ、澤山ニ其條件ガ擧ゲテアツテ、即チ婚姻ノ成立ニ附イテモ、之ヲ確實ナラシムル保障ヲ設ケヌ、又之ヲ解クニ當リマシテモ三行り半デ以テテヨツト其關係ヲ解クト云フヤウナ從來ノ關係ヲ止メテ、最ウ少シ鄭重ナル離婚ノ理由ト爲ルヘキモノヲ法律ガ認メテ、其理由ノ存スル場合ニ限ツテ、離婚ヲ許スト云フコトニナツタノデ、私ノ從來ノ三行り半ト新法典ノ規定トト比較スレバ、無論此法典ニ雙手ヲ擧ゲテ贊成スル者デアアル、諸君モ亦左様デアアル考ヘル、又後見ノ制——從來後見ノ制度ニ附イテハ、法律ノ制度ハナイ、唯後見人ト言フモノガアル、併ナガラ、此後見人ガ被後見人ノ財産ニ就イテノ報告ヲスルニハ、如何ナル責ガアル、ドウ云フ人ガ後見人ニナリ得ルト云フ法律ノ規定ガナイタメニ、後見人ノ不始末、ソレガタメニ被後見人ニ害ヲ及スト云フヤウナ例ガ澤山アル、之ニ附イテモ定メテアル、此法律ハ丁度日本ニ適シサウナコトガ定メテアル、又山田君ノ論中ニ隱居ノ制度ヲ非難セラレテアル、此隱居ノ制度ガ丁度此新法ノ符牒位ニナルノデアアル、山田君ハ隱居ト云フコトニハ、所謂厭世主義トカ何トカ、或ハ封建時代ノ遺物デアアルト云

フ風ナ語調ヲ以テ之ヲ攻撃シ、左様ナモノヲ此法典ガ認メタカライケナイト、斯ウ云フノデ、此論ニハ急進主義ノ人ナドハ、随分同意セラル、カ知レマセヌガ、併ナガラ此法典ハ假令封建時代ノ遺物デアリマシテモ、厭世的原因シタ慣例デアリマシテモ、兎ニ角今日ノ人民ノ中ニ慣例トシテ存シテ居ル以上ハ、無闇ニ之ヲ打破シナイ、慣行習慣ハ之ヲ保存スルコト云フ精神ニ基イテ、此法律ノ案ガ作テアルノデアル、ソレ故ニ隱居ノ如キ先ヅ私ナドモ要ラヌモノデアルト云フヤウナモノデゴザイマスルガ、併シ世間ニ隱居ト云フモノガ事實アル、事實アルモノハ法律之ヲ無視スルコトハ出来ナイカラ、隱居ノ制度ハ矢張保存シテ置ク、併ナガラ隱居ト云フ制度ヲ惡ルイコトニ用ヒナイタメニ、幾分カ此ハ制限ヲ附ケタ、即チ隱居スルトキハ、年齢ガ六十歳ニ達シナケレバナラヌ、其隱居シタ跡ヲ繼承スベキ所ノ人ガ其所ニナケレバナラヌト云フヤウナ制限ヲ用ヒテ、從來ノ隱居ヲ餘程宜イ隱居ニシタノデアアル、丁度此法律ガ今ノ隱居論ヲ以テ全體ヲトスルコトガ出来ルノデアアル、議論ノ合ハナイモノデモ、文化主義ニ合ハナイ所ノ者デモ、慣習トシテアルモノハ、法律ハ之ヲ認メル、而シテ其慣習ガ成ルベク害ヲシナイヤウニ、ソコニ保障ヲ附ケルト云フヤウナ主義ガ出来テ居ルノデアアル、ソレカラ、山田君ノ論中ニ遺言ノ事ヲ大分御攻撃ニナツテ、此遺言ノ方式ニ餘程面倒ノコトヲ持込デアル、一體ニ世界ノ進歩ト云フモノハ儀式カラ——儀式ヲ廢スルト云フ方ニ進ミツ、アルノニ、今日法典ヲ制定スルニ當ツテ、斯ノ如キ儀式ヲ要スルト云フコトガ進歩ノ主義ニ違ツテ居ルト云フコト、今一ツハ、歐羅巴流ノ遺言日本流ノ遺言ハ違フ、歐羅巴流ノ遺言ト云フノハ、財產ノ始末デアアル、日本流ノ遺言ト云フモノハ、先ヅ訓誡的ノモノデアアル、全ク違フト、斯ウ云フノデ、ソレハ違フト云フコトニ御同意申シテ宜シイ、併ナガラ、此法律ガ出来タメニ、訓誡的ノ遺言ヲ爲シタモノハ、罰金ニ處スト云フヤウナコトハ決シテナイノデアリマスカラシテ、此法律ガ出来テモ訓誡的ノ遺言ヲ爲シタイト云フナラバ、自由自任ニ爲スコトガ出来ル、ソレ等ノ自由ハ決シテ束縛シナイノデアアル、而シテ遺言ニ依ツテ財產ノ始末ヲシヤウト云フ人モ天下ニハアルダラウト思フ、ソレ等ノコトハ從來ドウナツテ居ッタカト云フト、遺言ニ依ツテ財產ノ始末ヲ爲スト云フコトハ、從來モアルニハアツタケレドモ、法律ニ明記ガナイタメニ、何時モ争ヒト爲ツテ、遺言ナルモノガ、眞直クニ遺言者ノ遺言通ニ行レタト云フ例シハ殆ドナイノデアアル、此所ニ財產始末ニ關スル遺言ノ法式ヲ定メレバ、此法式ニ依レバ、必ズ財產始末ダケニ就キマシテハ、兎ニ角遺言者ノ遺言ガ行レルト云フコトニナルノデアリマスカラシテ、歐羅巴流ノ財產始末トシテノ遺言ガ、今日世ノ中ニ必要デアルトスルナラバ、此法律ハ矢張必要デアアル、而シテ訓誡的遺言ト云フモノハ、此法律關係スル所デナイカラ、是ハ自己ノ自由自在ニナルノデアリマス、ソレカラ平岡君ノ御論中、新法ハ其家族制ヲ破ル、外國ハ個人制デアツテ、日本ハ家族制デアアル、而シテ此新法ガ家族制ヲ破ルト云フコトデゴザイマスガ、私ハ外國即チ歐羅巴諸國ガ個人主義デ

アルト云フコトニ附イテハ異議ガナイ、併ナガラ日本ノ制度ト云フモノガ、全ク家族制度デアアルト云フコトニ附イテハ、大イニ疑ガゴザイマス、日本ガ日本ヲ組立ツテ居ル「ユニティー」即チ單位ガ家デアアルト云フコトニ附イテハ、私ハ異議ガアル、矢張日本ヲ組立ツル所ノモノハ、人デアアルト云フコトガ、餘程認メラレテ居ルト云フコトヲ私ハ言ハナケレバナラヌ、全クノ家族制ニアリマシテハ、家ト云フモノガ一ツ、又其家以外ニハ法律若クハ政府ハ單位ヲ認メナイノデゴザイマスカラ、家カラ犯罪人ノアツタトキニハ、其家長即チ戶主ガ其責ニ任ズルト云フ制度デナケレバナラヌ、併ナガラ、刑法ヲ見マシテモ、矢張家族ノ中ニ犯罪人ガアツタ場合ニ其所ノ家長ガ、其責ニ任ズルト云フコトハ、刑法デハ之ヲ認メテナイ、ソレカラ徵兵令ヲ見マシテモ、一軒カラ一人兵隊ヲ出セバ、ソレデ宜イト云フコトヲ認メテナイ、丁年ノ男子ガアリマスレバ、何人デモ其人ニ附イテ、義務ヲ負フテ居ルノデアアル、刑法ノ上カラ云ヒマシテモ、徵兵令ノ上カラ見マシテモ、其外ノ法律カラ云ツテモ、日本ガ家ヨリ外ニハ——日本ノ法律若クハ政府ガ家ヨリ外ニ單位ヲ認メナイト云フコトハ、私ハ同意ガ出来ナイ、併シ之ヲ歴史のニ溯ツテ考ヘテ見マシタラ、家ト云フモノガ一ツ單位トシテ認メラレテ居ッタト云フコトガアルデゴザイマセウ、併ナガラ、是ハ法律ノ沿革トデモシテ調ベテ見ルニハ面白イ問題カモ知ラヌガ、今日ノ日本ノ制度ガ家族制デアアルト云フコトハ、私ハドウシテモ認メルコトガ出来ナイノデアアル、而シテ追々ニ家族制ノ範圍ヲ日本ガ維新——維新所デアナイ、私ハ維新ノ以前カラ家族制ト云フモノハ、モウ破レ掛ツテ來タノデアアルト思フ、維新後殊ニ甚シク家族制ト云フモノヲ破リツ、アルノデ、餘程此三十年間ニ家族制ヲ破リ、家ノ——戶主ノ權利、親ノ權利ト云フヤウナモノヲ段々縮小シテ、而シテ一個人ノ權利ヲ法律ガ認メテ來タデアラウト思フ、尙ホサウ云フヤウニ進ンデ行クダラウト思フ、サウスルト、丁度此法典ガ其道具ニナル、例ヘバ此法典ノ主義カラ行クト、親ガ死ンダ遺言モセズニ黙ツテ死ネバ、其全體ノ權利義務盡ク長子ニ行クノデアアル、是ガ從來ノ慣行ノ通りデアアル、併ナガラ先キニ生レタト云フダケノ僅ナ事柄ヲ以テ、總領ノ甚六ハ凡テノ權利ヲ取ツテ仕舞フ、次男ハ少シモ財產ヲ得ナイト云フコトハ不公平デアアル、次男モ財產ヲ與ヘナケレバナラヌト云フ議論ハ、世ノ中ニ出テ來テ、事實ノ上ニ次男三男ニモ親ガ活キテ居ル中ニ、財產ヲ分ケルト云フ事實ハアル、ソレヲ此法律ガ認メテ、遺言ニ依ツテ財產ノ或ル程度マデハ、之ヲ次男三男其他家族ニ分配スルコトガ出来ルト云フコトニシタ、必ズ分配シナケレバナラヌト云フ即チ長子相續ヲ全廢シテ、全體ノ權利義務ハ盡ク平等ニ男女ノ區別ナク、子ニ分配スル如キ亞米利加ニ行レル如キ法律ヲ持ツテ來タナラバ是ハ社會ニ激變ヲ生ズルト云フテ、大イニ心配ヲシナケレバナラナイガ、此原案ハソナ激變デナイ、黙ツテ置ケバ、從來ノ慣行通長子相續、併ナガラ遺言ニ依ツテ意思ノ發表——正確ナル意思ノ發表ニ依ツテハ、之ヲ變更スルコトガ出来ル、併シ變更シテモ長子ノ權利ヲ全ク奪ツテ仕舞フコトハ出来ナイ、ソ

コデ半額ダケハ長子ニ遺レト云フコトニナツテ居ル、是ダケ法ノ要點ヲ御話シ申シタナレバ、此法典ガ急進主義ニ出來テ居ル法典デナイト云フコトハ直チニ分ルコトデアアル、私杯此法典ニ多少不平等アリマスルガ、其不平等ハ寧ロ保守主義ニ過ギテ居ルト云フ不平等アル、モウ少シ進シテ貫ヒタイト云フ不平等、是ガ從來ノ家ノ中ニ破裂彈ヲ抛リ込ムト云フヤウナ激ナモノトハ認メナイ、從來行レテ居ル事柄ヲ其儘法律ノ形ニ直シタモノデアアルト信シテ居ル、若シ不平等アレバ稍々保守ニ失スルト云フ點ヲ以テ少シハ不平等アルノデゴザイマス、是ガ急進主義ニ依ッテ出來タト云フ不平等ハ少シモナイ、諸君ハ速ニ之ヲ贊成セラレンコトヲ希望致シマス

〔恆松隆慶君「討論終結」ト呼フ「贊成、々々」ノ聲起ル〕

〔討論終結ニ反對「ト呼フ者アリ」〕

○議長(片岡健吉君) 討論終結ニ反對ガアリマスカラ、討論終結ニ附イテ採決シヤウト思ヒマス、討論終結ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數デアリマス

○恆松隆慶君(百九番) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望シマス

〔贊成、々々ノ聲起ル〕

○議長(片岡健吉君) 尙ホ念ノタメニ、直チニ二讀會ヲ開クヤ否ニ附イテ採決致シマス

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕

〔異議アリ「ト呼フ者アリ」〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガアレバ採決致シマス、直チニ二讀會ヲ開クニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數デアリマス直チニ二讀會ヲ開クコトニ致シマス

民法中修正案

第二讀會

○議長(片岡健吉君) 本案ノ二讀會ヲ開キマスニ就キマシテハ、朗讀ヲ省略シテ全部ヲ議題ニ供シマス

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕

○政府委員(穗積陳重君) 諸君、本案ニ對シマシテ、(工藤行幹君)「モウ演說ハ要ラヌ」ト呼フ(委員會ニ於テ、二箇所修正ガゴザリマシタ、其修正ノ一箇所ハ提出者ノ理由ノ辯明モ詳シク承ハリマスルシ、成ル程御尤ト致シマスカラシテ、政府ニ於テモ、御同意ヲ致シマシタ、但シ他ノ一箇條ハ種々ノ差支ガゴザリマスカラシテ、此點ダケニ附キマシテハ、遺憾ナガラ修正案ニ御同意ヲ致スコトガ出來マセヌノデ其出來マセヌ理由ヲ茲デ陳述致シマスルカラシテ

ドウゾ委員會ノ修正ノ中ニ第七百二十四條第二項削除ノ點ダケハ、原案ノ儘ニ據置カレルヤウニ相願ヒタイト存シマス、七百二十四條第二項ヲ削除ニ相成リマシタ結果ハ、斯ノ如キ事ニ相成ルノデゴザイマス、七百二十四條ニ於キマシテ「父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因ッテ家ヲ去ッタトキニハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始メニ溯リテ之ヲ適用ス」トアリマスカラシテ、若シ養子ガ離縁ニ依ッテ養家ヲ去リマシタトキニ於テ、其後ニ子ガ生レマシタトキニ其子ガ通則ニ依ッテ父ノ家ニ居ルト云フコトニ相成ッテハ甚ダ不都合デゴザイマスカラシテ、ソレ故懷胎ノトキニ溯ッテ、矢張其場合ニハ母ガ通常家女ガ——母ガ養家ニ止マツテ居リマスカラ、其養家ノ子ト爲ル是ガ第一項デス、併ナガラ、父母ガ共ニ家ヲ去ッタトキニハ、此規定ヲ適用致サナイト云フコトニ原案ガ相成ッテ居ル、例ヘバ夫婦養子ノ場合ニ、夫婦トモ離縁ニ相成リマシタ、離縁ノ際ニ懷妊ヲ致シテ居ッテ離縁後ニ其子ガ生レタ、其場合ニハ、兩親共ニ養家ヲ去リマシタノデゴザイマスカラシテ、其實家ノ方ノ子ニ相成ルト云フコトガ原案ノデゴザイマス、然ルニ此第二項ヲ削除セラレマスルト云フト、斯ノ如キ夫婦養子ガ離縁ヲサレテ、離縁ノ際ニ丁度懷妊ヲ致シテ居リマシテ、其後ニ子ガ生レマスルト、生レルヤ否ヤ、其小兒ト云フ者ハ元トノ養家ノ方ノ者ニ相成ルコトニナリマスルノデ、即チ其子供ト云フ者ハ、自分ノ實父母ノ居ルコトガ出來マセズシテ——實父母ハ通常仲ガ悪ルクテ、離縁ニナルノデゴザイマスガ、其離縁サレタ養家ノ方ノ子供ニナル、生レルヤ否其赤子ト云フモノハ、前ニ喧嘩ヲ致シテ出タ養家ノ者ニナル、是ハ如何ニモ其子ニ對シマシテモ、甚ダ酷ナ譯デゴザイマス、其兩親ニ對シマシテモ、甚ダ人情上堪ヘ得ラレヌコトデアラウト思ヒマス、又其養家ニ對シマシテモ、甚ダ迷惑ナコトデゴザイマス、子ハ生レルヤ否、直ク父母ノ慈愛ノ温キ懷ニ依ッテ養育サレルコトガ出來ズシテ、元トノ養家ノ方ニ附カナケレバナラナイ、兩親ハ自分ノ子ヲ己ガゴクミ育テルト云フコトモ出來ナクナリマス、養家ノ方デハ不和等ノ理由ニ依ッテ、離縁ヲ致シマシタ、其者ノ胤ガ矢張自分ノ方ノ厄介ニ相成ル、世嗣ニ相成ル、凡テ關係致シマスコトガ、或ハ迷惑ヲ致シ、或ハ人情上忍ブベカラザルコトヲ法律ノタメニ強セラレルト云フコトニ相成ルノデゴザイマス、ソレ故ニ此點ニ附キマシテハ、從來ノ慣例デアリマシテモ、養家ノ方ニ生レルト、其子ヲ直グニ遺ルト云フコトニ相成ッテ居ラヌノデ、離縁ノ場合ニ、離縁以前ニ既ニ生レタ子ハ、養家ノ方ニ留マルト云フノガ本則ニナツテ居リマス、但シ協議ノ上連レテ歸ルト云フコトヲ許ス方ガ變則ニ相成ッテ居ル、懷妊中離縁ニ相成ッテ、ソレガ問題ト爲タコトハ、明治六年——八年ノ十一月ニ問題ニ相成タコトガゴザイマスガ、其場合ハ實際養家ノ方ニ之ヲ遺ルト云フコトハ、人情上モウ出來ヌコトデアリマスカラ、遂ニ實家ノ方ニ屬スルト云フコトニ相成タノデゴザイマス、先刻藤澤君ガ此通常ノ場合ハ誠ニ人情上忍ブベカラザル結果ガ生ズルト云フコトモ仰セラレマシタガ、家女ノ場合ニハ——併ナガラ、其血統ノ相續人ト云フ者ガナクナル

カラ困ルト云フコトモ述ベラレマシタ、ツレハ本案ニ於キマシテハ、此始末ガ著イテ居ルノデゴザイマス、家女デゴザイマス、元トノ養家ノ方ノ系統デゴザイマスカラ其血統ノ者ハ七百二十七條ニ依リマシテ、矢張養家ノ方ニ引取ルコトガ協議ノ上出来ルコトニ相成テ居ルノデ、若シ修正案ノ如クシマス、云フト、必ズ其血統デナイ者ガ養家ノ家督ヲ繼グト云フコトニナリマスカラ、非常ニ差支ヲ生ズルノデアリマス、今一步進ミマシテ、前ニ夫婦養子ガ離縁ニナリマシテ、サウシテ出来マシタ子ガ、養家ノ方ヘ直グ歸ルトナリマス、其後トニ又養子ヲ致シマス、其後ニ致シタ養子ニ本當ノ實子ガアリマス、後ニ致シタ養子ノ實子ト云フ者、ハ家ヲ繼グコトガ出来ナクナツテ、却ツテマ

ルデ兩親ニ血縁ノナイ者ガ家ヲ繼グコトニナリマス、後ノ養子ト云フ者ハ、繼子ニ家ヲ繼ガセナケレバナラヌト云フ結果ニマデ至リマス、實際ノ上ニ種々ノ點ニ不都合ヲ生ジマスカラ、此點ハドウカ元トノ通ニ差置カレンコトヲ希望スルノデアリマス、又懐胎ノ期日ト申シマスモノハ醫師ノ取調ニ依リマシテモ、百八十日カラ二百二十日ト云フコトデアリマス、然シテ離縁ノ後、例ヘバ八箇月目凡ソ二百日前後ニ出来タ子ト云フモノハ、離縁ノ後ニ懐胎シタノデアルカ、懐胎シタ後ニ離縁シタノデアルカト云フコトハ分リマセヌ、又十一箇月目位二百日以上ニ生マレマシタ子供デモ、離縁後ニ懐胎シタノデアルカ、離縁前ニ懐胎シタノデアルカ疑ガ起リマス、現ニ先キニ舉ゲマシタ明治八年ニ生ジマシタ戸籍上ノ問題ノ如キハ、ソコラモノツノ疑ニ相成ツテ居ルヤウナコトデアリマス、畢竟此等ノ場合ハ種々ナ紛議ヲ生ズルコトモアリマス、又今一ツ此點ニ附イテ原案ヲ其儘ニ置カレマスコトヲ希望シマス點ハ他ノ法律案トノ關係デゴザイマス、諸君ノ御手許ニハ回ツテ居リマセウト存ジマスガ、國籍法案ノ第二條ニ於テハ、本案ト殆ト同ジ文章ガアルノデ、是ハモウ殆ト同一ト申シテモ宜シイ、「父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懐胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス云々」若シ民法

デ此第二項ヲ削ラレマスナレバ、此國籍法ニ於キマシテモ、矢張第二條第二項ト云フモノハ削ラレヤウナ結果ニ相成ルデアラウト思ヒマス、此國籍法ハ既ニ貴族院ニ於テ議決セラレマシタモノデアリマシテ、之ヲ削リマシタ、結果ト云フモノハ勿論決定シナケレバナラヌト云フヤウナ手數モ尙ホアルコトデゴザイマス、一ツ困リマスコトハ、戸籍法案ノ第七十一條トノ關係デゴザイマス、戸籍法案ノ七十一條ニ於キマシテハ、出生届出ハ父ガスルト云フコトニナツテ居リマス、從ツテ民法ノ七百三十四條ノ場合ガ取除ケニナツテ居ルノデゴザイマス、此場合ニハ母カラスルト云フコトニナツテ居ルノデ、若シ民法ノ規定ガ削ラレマスト云フト、戸籍法ノ方ノ修正ト云フコトモ行ハナケレバ相成リマセヌ、而シテ戸籍法ノ委員會ニ於テハ此條ハ元トノ儘ニ置カレテアルノデゴザイマス、又戸籍法ヲ修正致シタトシテモ、實ハ戸籍上

不都合ノモノデゴザイマシテ、例ヘバ東京府ノ者ガ離縁ニ依ツテ其籍ヲ去リマシテ、長崎ニ參リマシタ、長崎デ出生致シマシタトキニ其居リシマス、父母ハ長崎縣ニ在ツテ其出生届ヲ致シマス、忽チ其子ト云フモノハ東京ノ元トノ養家ノ戸籍ニ入ル、マルデ届ケル所ト戸籍ニ這入ル所ガ別ナモノニ相成ルヤウナコトニナル、ツレ等ノ不都合モ此戸籍法ヲ修正スル必要ノ外ニ生ズルモノデゴザイマス是等ノ種々不都合ガゴザイマスカラシ他ノ修正案ニハ全ク御同意ヲ致シマシテ、委員會ノ通ニナリマシテモ、少シモ差支ガアリマセヌガ、此點ダケハ何卒原案ノ儘ニ据置カレシコトヲ切ニ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 波多野傳二郎君

○波多野傳二郎君(百二十五番) 若シモ今日直ニ第二讀會ヲ開カル、ト云フコトデゴザイマセヌナレバ、諸君ヨリ定規ノ贊成ヲ得テ修正案ヲ提出スル積リデアリマシタガ、實ニ我社會ノ基礎ニ關係ノアルト云フ親族編相續編ナルニ拘ラズ、諸君ノ賢明ナル直チニ第二讀會ヲ開カル、ト云フコトニナリマシタデ、已ムヲ得ズ本員ノ希望スル修正ノ意見ヲ述ベ、其大略ヲ説明致シテ、諸君ノ贊成ヲ請ハント欲シマス、先ヅ他ノ人ハ免ニ角、今第一讀會ノ場合ニ於テ、此民法修正案ヲ維持セラレタル鳩山博士ノ如キハ、確カニ本員ニ贊成セラルベキ義務アリト鳩山君自ラノ維持ノ演說ニ於テ本員ハ信ジテ居ル譯デアリマス、本員ノ修正ヲセントスル箇條ハ、然ラバ何デアアルカト申シマス、第四編第二章ノ中第三節戸主權ノ喪失ト云フ一箇條、同ジク第四編ノ中第四章第二節ノ中第二款庶子ヲ認知シタル箇條、此二箇條ヲ修正案中ヨリシテ除キ去ルト云フコトガ本員ノ修正ノ趣意デゴザイマス、本員等ノ素志ヲ申シマシレバ、山田喜之助君ガ説カレタ如ク、今日ノ如キ社會ノ變遷ノ多キ我國ニ在ツテ、千歲不磨ト云フコトハ少シ事大仰ニ失スルカハ知リマセヌガ、一度制定致シマスレバ、十年位ハ改メント欲スルモ改メ難キト云フ、此民法ヲ一ノ成典トシテ世ニ出スト云フコトハ、元來喜バヌ者デゴザイマス、併シナガラ、既ニ第一讀會ニ於テ、是ガ現在ノ場合ニ於テ必要ナリト諸君ノ御多數ガ御可決ニナリマシタ以上ハ、已ムナク、責メテハ是ヨリ先キノ社會ノ進運ヲ察シ、現在ヲ慮ツテ改メント欲スルモ改メ得ザル期間位ニハ當テ候メルモノニ此法典ヲ修正シ置キタク存ジマス、山田喜之助君ガ説カレタル如ク、本員等ノ考ハ改正條約ニ伴フテ居リマス所ノ議定書ノ所謂法典ト云フ中ニハ親族編相續編ノ如キヲ含マレズシテ可ナリト云フ考デゴザイマス、既ニ之ヲ含マル、モノデアルト云フ、又鳩山和夫君ノ成ル程直接ノ關係トハ云ハレマシキモ、間接ノ關係ハ随分外國人ニモアルコトデアアルカラ、今ニ於テ此修正民法ノ中親族編相續編ヲ世ニ現シテ置クコトハ明年ノ七月十六日ヨリ改正條約ヲ實施スルニ必要デアルト云フト、斯ク説カレマシタ以上ハ、現在之ヲ存シテ益ナク、將來ヲ慮ツテ存スレバ害ガアル、而モ御同前ガ、御同前ト申スヨリモ寧ロ、上御一人ヲ始メ奉リ、官民共ニ希望シテ已マザル改正條約ハ殆ト平等ノ基礎ノ上ニ成立ツテ之ヲ行レントスルトキニ當ツテ、既ニ外國人ト關聯スル必要ト云フナラバ、是等ノ者ノ眼カラ見テモ、大イニ喜ブ

シテ、長崎ニ參リマシタ、長崎デ出生致シマシタトキニ其居リシマス、父母ハ長崎縣ニ在ツテ其出生届ヲ致シマス、忽チ其子ト云フモノハ東京ノ元トノ養家ノ戸籍ニ入ル、マルデ届ケル所ト戸籍ニ這入ル所ガ別ナモノニ相成ルヤウナコトニナル、ツレ等ノ不都合モ此戸籍法ヲ修正スル必要ノ外ニ生ズルモノデゴザイマス是等ノ種々不都合ガゴザイマスカラシ他ノ修正案ニハ全ク御同意ヲ致シマシテ、委員會ノ通ニナリマシテモ、少シモ差支ガアリマセヌガ、此點ダケハ何卒原案ノ儘ニ据置カレシコトヲ切ニ希望致シマス

ベキ有様ニ修正シヤウ、サラバト云ツテ、其基礎タル四千万ノ兄弟姉妹共修正ガ害アルト云フナラ、決シテ外國人ノタメニスベキデハナイ、四千万ノタメニ改テ害ナクシテ、又是ヨリシテ共ニ交ハルベキ人共ニ喜ブベキコトナラバ、之ヲ修正スルガ相當ト本員ハ考ヘル、ツレ故ニ第四章第二章中ノ戸主權ノ喪失即チ隱居ノ制度ヲ第一削除スルト云フコトヲ本員ハ希望スルノデアリマス、然レバ此隱居ナルモノガ現在ニアツテ如何ナル用ヲナシテ居リ、如何ナル働キヲシテ居ル、之ヲ存ゼザレバ現在ノ家族ノ有様ニ害ガアルカト云フト、本員ノ考デハ之ヲ存ゼズシテ何ノ害ハナイ、特ニ將來ヲ慮レバ之ヲ殘スト云フハ社會ノ進歩ヲ妨グルト云フ害ガアルノデゴザイマス、ツレハ何デアールカト云フト、先ヅ低キ所カラ觀察致シマスト云フト、六十歳以上ノ年齢ニ達シ、且ツ相續人ガ承諾スレバ隱居ガ出來ルト云フコトニシテ、果シテ社會ノ多數ヲ占メテ居ル下層ノ者ガ隱居ガ出來ルヤ否ト云フニ、是ハ決シテ吾々ハ隱居ナリト云フテ、細キ煙ダニ立テルコトガ出來ヌ有様ナレバ、六十歳七十歳ニナラウトモ、晨ニ星ヲ戴イテ出デタニ月ヲ踏シテ歸ルト云フ生活ヲ致々營々トシテシナケレバナラヌト云フコトハ明デアル、然ラバ隱居制度ハ實際ニ行ル、ハ中産以上ノ者ダケデアアル、中産以上ノ者ハ隱居ト云フコトヲセナクテモ、一家ノ經營ノ上ニ何等ノ妨ガアルカト云フニ、中産以上若千ノ餘地アル者ハ、己レ自ラ戸主權タルハ、稍々不適當ト云フトキニナリマスレバ、相當ノ代理人ヲ置イテ、一家ノ經營ノ一部ヲ委託シテ大體ヲ括リ置クト云フコトニ、何等ノ妨モナイ、置ケバ置ケルト云フモ、隱居スレバ出來ルト云フモノニ附イテハ、隱居制度ハナクテモ、一家ノ經營ニ妨ダナイ、然ラバ申スモ畏キコトデゴザイマスガ、上御一人ハ如何ニ在ラセラル、ト云フコトヲ考ヘマスルト云フト、我大日本帝國憲法ト共ニ、去ヌル明治二十二年二月十一日ヲ以テ發布セラレタル皇室典範ヲ拜讀致シマスレバ、諸君ノ御存ジノ如クニ、其古ハ我皇室ニモ隱居制度ハアリシモノヲ、此皇室典範ニ於テハ隱居制度ト云フモノハ棄テサセ賜フタ譯デゴザイマス、我社會ニ在ッテ中産以上ノ者ノ一家ノ經營ヲトハ、事異リマシテ、我大日本帝國憲法ノ第一條ニモ示シテアルガ如クニ、我陛下ハ此帝國ヲ統治シ賜フト云フ萬機ニ當リ賜フ御身デアリナガラモ、一度踐祚シ賜ヘバ、崩御アラセラル、マデハ、萬機ヲ賜ラシ賜フト云フコトヲ、皇室典範ハ其第十條ニ於テ定メテアリマス、偶天皇ガ久シキニ瓦ルノ故障ニ依ツテ、大政ヲ躬ラスルコト能ハザルト云フヤウナ場合ニ當ツテハ、皇族會議並ニ樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置キ賜フト云フコトニ限ツテ居ルマデニ相成リ居リマスルハ、誠ニ恐多キ比喩デハゴザイマスガ、御同然臣民ノ側カラ此民法ノ中ニ譬ヘラレタナラバ、恰モ後見人ヲ置クト同様ナ仕方ト相成ルノデゴザイマス、上御一人ハ斯ノ如ク國家ノ事ノタメニハ、一たび踐祚シ賜ヘバ、終生再ビ其位ヲ退カル、ト云フコトハナイ、又下層ヲ見レバ同シク如何ニ隱居セントシテモスル能ハザルト云フ有様ノトキニ當ツテ、中産ノ者ノミガ爲シ得ル、然ラバ此中産以上ノ者ニ是ヲ遺

サネバナラヌカト云フト、少シモ遺サネバナラヌト云フ必要ハ認メナイ、而シテ此事ガアレバ如何ト申シマスと云フト、是ヲ既往ニ考ヘマシテモ、或ハ現在ニ照シマシテモ、此制度ノアルト云フコトハ、動モスルト、一家ニ不和ノ端緒ヲ啓クト云フヤウナコトガアル、縱令一家ニ不和ノ端緒ヲ啓クト云フコトガゴザイマセヌト致シマシテモ、社會ニ出テ、働ケバ働ケルト云フ人ガ空シク苟且儉安ニ日ヲ送ルト云フコトハ、一人ニ就イテ不利益デアアルバカリデナクシテ、社會ノ富強ノ上カラ考ヘマシテモ甚ダ好マシカラヌ制度デアアルト、本員ハ考ヘマス、其昔武門ノ世ニ在ッテハ、成ル程六十一歳ニナレバ、軍役御免弓馬槍劍ヲ以テ一騎討チヲスル世ノ中ニハ、斯ノ如キ必要ハ或ハアツタデゴザイマセウ、併ナガラ今日ハ最早左様ナル時代ハ去ツテ居ルコトデゴザイマスレバ、此隱居制度ト云フモノ、必要ヲ見ナイ、之ヲ遺シテ置ケバ、害ガアルト云フ點ヨリシテ、第一ニ第四編ノ第二章ノ中第三節戸主權ノ喪失ト云フ箇條ヲ削除シタイト考ヘマス、第二ニ、同シク第四章第一節ノ中第二款ノ庶子ヲ認知スルト云フコトヲ除ク、是ハ隱居ノ制度ヨリハモウ一層社會ノ上ニ害ガアルト存ジマス、而シテ存シテ置イテ何ノ益モナイ、然ラバ我國ノ今日マデノ法律制度ノ變遷ハ如何デアアルカト申シマスと云フト、維新以前ハ先程山田喜之助君モ其一部ヲ言ハレタル如クニ、或ハ佛教ニ感化サレ、或ハ儒道ノ感化ヲ受ケタト云フタメデゴザイマセウ、天子ハ幾人、諸侯ハ幾人、大夫ハ幾人、士庶人ハ幾人ト云フヤウナ妾ヲ置クト云フトハ、殆ド普通ノコト、心得タコト、今一ツニハ、不孝ノ罪ニツ、後ナキヲ大ナリトスト云フヤウナコトヲ教ヘラレ、唯後嗣ヲ思フト云フ、ツレガタメニ、遂ニハ妾ヲ蓄ヘルト云フコトマデガ、我封建ノ時代ニ行レ、又封建時代ニ家名ヲ尊ビ、家名ニ依ツテ家祿ヲ世襲スルト云フ時代ニハ、或ハ是モ已ムヲ得ザルコトデアツタカモ存ジマセヌ、今日然ラバ如何ト云フト、今日ニ於テハ何ノ必要モナイ、然レドモ今日マデノ法律制度ノ變遷ヲ見マシテモ、明治三年ノ十二月ニ新律綱領ヲ發布セラレタル當時、同シク六年六月ニ改定律令ヲ發布セラレタル當時マデノ六等親ノ圖ヲ見マスルト云フト、父母ニ列ベテ一等親ノ次ニ位シタル二等親ノ妾ト云フモノガ存シテアツタガ、流石ニ歐米ト交際ヲシ、文明ノ光ニ照サレ、開化ノ風ノ吹來ツタルトキニナツテハ、法律ノ上ニ妾ト云フモノヲ認メテ置クト云フコトハ忍ビヌモノト相成リマシタモノト見エマシテ、十二年七月ニ發布セラレタル刑法以來ハ、初テ此二等親ト云フコトハナクナリマシタ、此度ノ民法ニモ成ル程妾ト云フ文字ハ使ツテハゴザイマセヌ、併ナガラ父ノ認メタル子ハ、庶子トスルト云フコトハ、謂フ所下世話ノ頭隠シテ尻隠サズト云フ仕方ト申サネバナリマセヌ、然ラバ此庶子ト云フモノヲ法律ノ上デ認知シ置カナクテハナラヌト云フ今日必要ガアルヤ否ト云フト、何モ必要ガナイ、而シテ之ヲ認知シ置ケバ、其結果ハ如何デアルト云フト、成ル程妾ト云フ文字ハ現レテ居ラヌガ、庶子ノ親即チ妾ヲ蓄ヘルト云フコトハ、隱然社會ニ行ハル、コトニナル、此事ノ行ハル、結果ハ、

一家ノ不和ハ無論ノコト、ツレガタメニ社會ニモ隨分忌ハシキコトヲ此ニ演
出スルト云フコトヲ免レナイ、是モ諸君ガ御承知ノ如クニ、彼ノ演劇ハ小世
界デアルト云フ其脚色ノ本ハ、何かト云フト、世ニ所謂御家騒動ト云フモノ
ハ、何かヲ起ルカト云フト、妾ヲ蓄ヘルト云フ一ノ制度カラ起ラザルナキ
ハ、殆ド其軌ヲ一ニスルト云ツテモ宜イコトハ、諸君ノ御承知ノ通ノコトデ
アル、斯ノ如ク弊ガアツテ、而モ今日此社會ノ進運カラ見、實ニ改正條約ヲ實
施シテ對等ノ交ヲ爲シ、對等ノ交ヲ爲スト云フコトハ、唯法律上ノ言葉制度
上ノ句ダケデ、對等ノ交ガ出來ズシテ、直ニ同等ノ交際ヲシヤウト云フニハ、
御同前ガ鄰邦ノ間ニ在テモ、互ニ知り得ルコトデアアル、決シテ書イタモノヤ
口デ言ツタコトデ、心カラ安ジテ對等ノ交リ同等ノ交際ナドト云フコトハ出
來ルモノデナイ、之ヲ實際ニ行フニハ如何カト云フト、實ニ社會ノ基礎タル
家族ノ制度ニ至ルマデ、彼此格別ノ差ナク各々心ニ快樂ヲ感ジ得ルト云フ制
度ニ定ツテ居ッテ、始テ對等ノ交際モ出來ルモノデアアル、而シテ之ヲ存セ
ザレバ害ガアルト云フナラバ、是亦他ノタメニ枉ゲルコトハ出來ヌガ、存ス
レバ害ガアル、之ヲ除イテ何ノ差支ガナイト云フトキニ當ツテ、千載不磨ト
ハ大仰カモ知レマセヌガ、少クモ一ト度法典ヲ編纂シ、世ニ現シタル以上ハ、
十年ヤソコラデハ蓋シ改ムルコト難キト思ハル、其時ニ此文字ヲ殘シ置ク
ト云フ必要ハ本員ハ無イト考ヘマスルガ故ニ、本員ハ大體ニ於キマシテ、隱
居ノ制度竝ニ庶子ヲ認ムルト云フ此ニツツ民法ノ中ヨリシテ削除スルト云フ
コトノ修正說ヲ呈シマス、是ガ削除ト相成リマス云フト、第二ノ日程ニ上
リ居リマスル戸籍法杯ニモ多少ノ影響ヲ及シマスルシ、又民法ノ中デモ此一
節ニ款ガ削除ト相成リマスレバ、多少加除セネバナラヌ箇條ハ起リマスルガ、
併ナガラ、此事ガ社會ニ益ガアツテ、國家ニ害ノナイコトデアアルナラバ、此
大體ノ通過ヲ努メラレタル鳩山君ハ無論ノコト、他ノ諸君ニ於キマシテモ、唯
法律ハ既往ヲ考ヘテ現在ヲ見ルト云フバカリデナクシテ、將來ノ事モ慮ラネ
バナラヌコトデアアルト云フコトニ御注意下サツテ定規ノ御贊成アラシコトヲ
希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 木村格之輔君
希望致シマス

(木村格之輔君演壇ニ登ル)

○木村格之輔君(二百二十五番) 諸君、私ハ八百六十六條ノ第四ヲ修正致シ
マスル動議ヲ提出致シマス、此ノ如キ文字ヲ挿入致シタイト云フノデス、
第四ニ「他ノ一方カ」トアリマス、其下ヘ委員會ニ於テ修正サレマシタ、八百
十三條第四號中ノ矢張修正ニナツテ居リマスル「偽造、賄賂、猥褻、竊盜、
強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第百七十五條第
二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因
リテ」ノ七十五字ヲ加ヘヤウト云フ修正案デゴザイマス、諸君、夫婦ノ關係
ト養父子ノ關係トデハ、孰ガ重イノデゴザイマセウカ、又孰レガ輕イノデゴ
ザイマセウカ、本員ノ考ヘル所ニ依リマス、夫婦ノ關係ハ養父子ノ關係ヨリ

ハモツト親密ナモノデアルト考ヘラレル、故ニ、原案ニモ夫婦ノ關係ニ就キ
マシテ、離縁ヲ求ムルノ理由ハ、輕罪ノ刑ニ處セラレテモ、三年以上
デナケレバ、離婚スルノ理由トスルコトハ出來ナイトシテアツタノデ
アリマス、然ルニ八百六十六條ノ第四項ニハ、重禁錮一年以上ノ刑ニ處セ
ラルレバ離婚スルノ原因トスルコトガ出來ル、即チ三年ト一年トノ差アルヨ
リ見マスルト、原案者モ矢張夫婦ノ關係ハ、養父子ノ關係ヨリモ親密ナモノ
デアルト云フ精神ヨリ、此ノ如ク輕重ノ法條ヲ設ケタモノデアルト信シラレ
ル、然ルニ委員會ニ於テハ、夫婦ノ關係ノミニ對シテ、諸君ノ御手許ニ御回
シニナツテアリマス通、八百十三條ノ第四號中ノ離別ノ原因ヲ矢張本員ガ唯
今修正セントスル挿入ノ文字ノ如ク修正シテアル、故ニ夫婦ノ關係ニ於テハ、
竊盜ヲシタ妻デアルトカ、或ハ強盜ヲシタ妻デアルトカ云フヤウナ破廉耻罪
ヲ犯シタ場合ニハ、三年以下ト雖モ離婚スルノ原因トスルコトガ出來ルケレ
ドモ、養父子ノ間ニ於テハ、竊盜ヲシマシテモ詐欺取財ヲ致シマシテモ一年
以上ノ刑ニ處セラレナケレバ、養子ヲ離別スルコトガ出來ナイト云フノハ甚
ダ其權衡ヲ得ザルモノト信ズルデアリマス、諸君、如何デゴザイマセウ、自
分ノ養子ガ竊盜ヲ致シ又ハ強盜ヲ致シ、詐欺取財ヲ致シ、テモソレヲ理由トシ
テ其養子ヲ離別スルコトガ出來ナイトナリマシタナラバ是マデノ日本ノ慣習
ニ副ハナイト云フコトハ自ラ明白ナコトデアルト信ズルデアリマス、故ニ
八百十三條第四號ヲ修正シタ意思ヲ以テ矢張養父子ノ關係ニ對シマシテモ、
唯今本員ガ修正致シマスル通ニ挿入セラレ、ンコトヲ希望スルデアリマス、
サウ致シマスレバ、權衡ガ能ク合フデアリマス、又八百十三條ノ修正ニ附
キマシテハ、政府委員モ反對ハナクシテ參同シテアルデアリマス、故ニ其
權衡ヨリ見マシテ、此挿入ノ修正ニ就キマシテハ、無論反對ノ無イコト、存
ジマスカラ、定規ノ御贊成アラシコトヲ希望致シマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

○小室重弘君(百八十八番) チョット御注意致シマス

○北島傳四郎君(六番) 六番ハ修正ノ意見デアリマスカラ……

○小室重弘君(百八十八番) 斯ウ修正ガ澤山出テ參リマス、大キニ採決ノ
トキニ困ラウト思ヒマス、成ルベクハ此修正ハ便宜ノタメニ一ツ出マシタノ
ヲ、先キノ修正カラ段々ニ決定ヲシテ行タラ如何カト思ヒマス、誠ニ貴重ナ
演說ガアリマシテモ、甚ダ決定ノ際ニ至ツテハ無益ニナルダラウト思ヒマス

○議長(片岡健吉君) 今木村格之輔君ノ修正說ハ定規ノ贊成ガアリマセヌ

(「アリマス」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 關信之介君

(關信之介君演壇ニ登ル)

○關信之介君(百五十二番) 私ノ修正說ハ極テ單簡デゴザイマス、其修正
致シマスルノハ、第二章第一節第七百四十一條デゴザイマスガ、此法文ニ

「婚姻、又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻云々」トゴザイ

トゴザイ

マス此「入りタル者」ノ下ニ、「離婚離縁若ハ取消ニ因ル」ト云フ十一字ヲ加ヘタイト云フノガ、即チ本員ノ修正意見デゴザイマス、何故ナラバ、此七百四十一條ヲ讀過致シマスルト云フト、殆ド一タビ養家ニ參リ、一タビ婚姻ヲ致シマシタモノガ、再度又二重ニ婚姻ヲ致シ、二重養子縁組ヲ致シテモ、少シモ差支ナイト云フヤウニ見エマス、併シ立法者ノ趣意ハ、右ノ如キモノデナイト云フコトハ、委員會ニ於テモ承ッテ居リマスルケレドモ、此文字其モノヲ讀デ見マスルト、決シテ立法者ガ答辯致シマスル如ク、是ハ決シテ重婚ヲ認メタモノデハナイ、養子ノ重婚ヲ認メタモノデナイト云フヤウナコトヲ述ベラレマスケレドモ、此文面ハ決シテ立法者ガ委員會ニ於テ答辯致シマスル如ク、是ハ決シテ養子重婚ヲ認メタモノデハナイ、重婚ヲ認メタモノデハナイト云フコトニ決シテ解スルコトガ出來ヌノミナラズ、法律ト云フモノハ、或ハ無學ノ者ニモ分ルヤウニシナケレバナラヌモノデアリマス、デアレバ、此他家ニ入りタル者ガノ下ニ、「離婚離縁若クハ取消ニ因リ」ト云フコトガ這入ルト云フト、誠ニ明瞭ニ相成リマシテ、而シテ立法ノ趣旨ニモ適フコト、考ヘマスルカラ、此事ハ甚ダ字句ノ修正ノヤウデハゴザイマスケレドモ、一目ニシテ分リ易イコトニ相成ルコト、考ヘマスルカラ、ドウカ満場ノ諸君、此ノ修正案ニ御賛成アラシコトヲ希望致シマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 小室重弘君……

○小室重弘君(百八十八番) 私ハ極ク簡單デアリマスカラ、此所カラ申シマス、第七百三十四條ノ第二項ノ削除ニ附キマシテハ、自分等モ委員會ニ於テ贊成ヲシナカッタデアリマス、是ハ原案ノ如クニシテ置カナケレバナラナイノデ、其理由ハ先キ程穂積君カラ述ベテゴザイマスカラシテ、繰返ス必要ハゴザイマセヌ、況ヤ國籍法ノ第二條ノ二項或ハ戶籍法ノ七十一條ト云フヤウナ所ニ關聯ヲシテ居ルノデゴザイマス、故ニ之ヲ今茲ニ削除スルト云フコトハ、外ニモ傷ケマスル、勿論傷ケテモ其道理ガ削除シナケレバナラヌト云フ十分ナル理窟ガアルコトナラバ格別デゴザイマスガ、私共ハ削除スベシト云フ議論ハ甚ダ薄弱ナルモノデアルト云フ者デアリマスカラ、是ヲ復活スルコトニ御同意ヲ願ヒマス

〔贊成、々々〕ト呼フ者アリ

○北島傳四郎君(六番) 議長……

○議長(片岡健吉君) 北島君ハ修正説デスカ

○北島傳四郎君(六番) 修正デス

(北島傳四郎君演壇ニ登ル)

○北島傳四郎君(六番) 私ノ修正セントスル所ハ極ク簡單ナコトデアリマス、簡單デアリマスケレドモ、最モ必要ナコトデアラウト思ヒマスカラシテ——其章ハ第二章ノ第一節中デ七百三十六條ニ當ル所デアリマス、デ、詰リ此法律全體ニ附イテハ、和漢洋混交ノ法律デアッテ今日ニハ適セヌト云フコ

トヲ、吾々ハ感シテ居ルケレドモ、ソレハ既ニ是ガ實際ニ行フト云フコトニナツタ以上ハ、甚ダ此今日ノ習慣ト反シテ居ルト云フコトダケヲ修正シテ置キタイ積リデアアルノデス、其七百三十六條ノ但書以下ヲ削ッテ、サウシテ以下是ニ關係スル所ヲ皆是ヲ削ッテ行ク積リデアアル、其中七百三十六條ヲ見マスルト云フト、先ヅ其夫ノアル女ガ一家ノ戶主トナツテ、サウシテ夫ガ其家族トナツテ其配下ニ服サナケレバナラヌト云フヤウナ規定ニナツテ居ルデアリマス、是ハ日本ノ今日ノ社會ニ於テハ、果シテ適當シテ居ルヤ否、私ノ考デハ甚ダ日本ノ今日ノ有様ニハ適セヌ規定デアルト云フ考ヲ持ッテ居ル其適セヌト云フ考ハ長ク申上ゲルマデモナカラウト思ッテ居ルデス、然ルニ委員會ニ於テハ此事ニ附イテ果シテサウ云フ習慣ニ基イテ此法律ヲ作ッタト云フ政府委員ノ説明デアッタカラ、サウ云フ習慣ガアルカト云フコトヲ尋ネマシタ所ガ、ソレハズット古イ時分ニ鎌倉ノ尼將軍ノ時代ニ少シアッタラシイ、ソレカラ其後ニハドウ云フ風ニナツテ來テ居ルカト云フニ、其後ニハサツパリ無イ、サツパリ無イガ、明治初年カラチラホラアル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、明治初年カラ果シテアッタナラバ、私ノ考ニハ是ハ成ル程アノ時分ニハ一時妙ナ議論ガ流行ッテ、男女同權トカ何トカ大變ヤカマシイ議論ガアッタ時分ニ、物好キナ者ガ一ツ家内ヲ戶主ニシテ自分ガ家族ニナツテ見ヤウト云フヤウナ考ノ人ガヤツタノデハナイカ知ラヌト思フ、果シテサウ云フヤウナ遺物ガ遺ッタトスレバ、其事ガ——今日社會ニ先ヅ男女同權ト云フヤウナコトガ餘リ認メラレナイヤウナ今日ニナツテハ、ソレヲ遺シテ置クノ必要モナカラウ、又一ツハ是ハ此習慣ハ待合茶屋ヤ或ハ貸座敷等ヨリ起ッタ習慣デアナイカ知ラヌト思フ、彼等ハ先ヅ其ア、云フ所ニハ多ク戶主ト云フ者ハ女デアアルカラ、ソコデ何か好キナ男デモ引張り込ンデ、ソコデ懐胎シタカラ、私生兒ト届ケルコトモ出來ヌ、ソコデ婚姻ノ式ヲ舉ゲル、婚姻ノ式ヲ舉ゲルケレドモ、直ニ此者ヲ以テ戶主トシテハ、其財産ヲ宜イ加減ニサレルト云フヤウナ恐ガアルカラ、先ヅソレヲ家族トシテ置イテ、女ガ戶主デ居ルタト云フヤウナモノデ、ソレガ戶籍上ニ遺ッテ居ルモノヲ、政府ノ方デ成ル程此所ニ斯ウ云フ習慣ガアル、是ハ大變進ンダ習慣ダカラ、習慣トシテ一ツ採用シヤウザヤナイカト云フヤウナ所カラ、此規定ガ出來タノデハナイカト云フ考ヲ持ッテ居ル、ソコデ私等ハソレデハ明治初年カラ此習慣ガアルトシタナラバ、如何ナル社會ニ是ガ行レテ居ル習慣デアアルカ、即チ其社會ノ如何ナル所ニ行ハレテ居ル習慣デアッテ、又其習慣トスレバ、ドノ位女ガ戶主デアッテ男ガ家族デアアルカサウ云フコトノ調ヲ一ツ聽キタイモノデアルト云フコトヲ質問シタ所ガ、其調ハ出來タ、成ル程一二ノ例ヲ舉ゲルコトハ出來ルト云フ答辯デゴザイマシタ、一二ノ例ヲ舉ゲルコトハ出來ルト云フコトデアッテ、統計等ヲスルコトガ出來ヌコトデアッタナラバ、今日習慣トシテ認メル値打ノナイモノデアルト感シテ居ルノデス、尤モ法律ハ習慣ニ基ク、法律ト云フモノハ善良ナルモノデアルト云フコトハ、固ヨリノコトデアアル、殊ニ此親族

法杯ハ習慣ニ基カケレバナラヌモノデアルガ、法例デモ認メラレタ通り、善
良ナル習慣デナケレバ採用セヌト云フコトニナツテ居ル、然ルニ若モ吾マ
想像スルガ如ク、一時社會ニ流行シタ男女同權論ナドノ飛離レテアツタル
レ等ノ者ト下等社會ノ待合茶屋料理屋ナドニ起ツタ習慣デアツタナラバ、是
ハ撲滅スルコソ努メナケレバナラヌガ、之ヲ法律ヲ以テ認ムル程ノ必要ハナ
カラウト思フテ居ル、ソレデ今日ハ假令此習慣ガアツタ所ガ、社會ノソレ程
害ニナツテ居ラヌ、ナゼカト云フニ、法律ヲ以テ認メテ居ラヌカラ、ソレ
ガ行ハレテ居ル所ハ、僅カノ範圍ニ行レテ居ル故ニ、社會ノ害ニナラヌガ、
併ナガラ一旦此帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ガ若シ法律トナツテ世ノ中ニ出
タナラバ、下等社會ノミニ行レル所ノ法律デナイカラ、社會ノ如何ナル階級
ニモ是ガ出來テ、ドウモ無權力ナル男ガ續々出來ルダラウト——ソレハ先ツ
勝手デアアルカラト云フヤウナモノ、今日ノ社會ニ適スル風俗ノ認ムルコト
ハ出來マセヌ、ソレデアアルカラ、色々申上ゲタイコトモアルケレドモ、兎モ角
モ此夫ノ無イ女ノ如キハ、固ヨリ戸主ニナルコトハ當然ノコトデアアルケレド
モ、夫ノアル女ハ戸主タルコトハ出來ヌト云フヤウニ規定シタルノデアアリマ
スカラ、此七百三十四條ノ但書以下ヲ削ツテ、以下之ニ關係スル所ノ即チ有
夫ノ女戸主ト云フ者ヲ皆削リ去リタイ積リデアリマスカラシテ、諸君幸ニ御
賛成下サレンコトヲ希望致シマス、尤モ何か細君ニ同情ヲ表スル御方デア
テ、是ニ賛成シテ具合ノ惡ルイ方ハ賛成シナクテモ宜イガ、成ルベク賛成セ
ラレンコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 段々修正説モ出マシタガ、定規ノ賛成ガアリマセヌカ
ラ、委員會ノ修正ニ附イテ、一條ツ、採決致サウト考ヘマス

○星松三郎君(二百十七番) 修正説ノ中ニ賛成シタイ者ガアリマスカラ、一
言述べタイ

○議長(片岡健吉君) 先キノ修正説ニ賛成デアリマスカ
○星松三郎君(二百十七番) 何レガ宜イカト云フコトヲ勸考中デアリマス、
私ノ賛成シヤウト思フノハ、波多野君ノ説ノ即チ……

○議長(片岡健吉君) ソレハマダ定規ノ賛成ガアリマセヌカラ、問題ニナツテ
居リマセヌ

○星松三郎君(二百十七番) ソレヲ賛成シテ賛成ヲ請フト思ヒマス……

○議長(片岡健吉君) 賛成ノ有無ヲ仰シヤツテ下サイ、定規ノ賛成ガアルナ
ラバ、ソレガ問題ニナル

○星松三郎君(二百十七番) 賛成
(笑聲起ル)

(「決々」ト呼フ者アリ)
○小室重弘君(百八十八番) ドウ云フ風ニ採決ニナリマスカ
○谷澤龍藏君(百番) 此七百三十四條ニ附イテ小室君ノ説ニ賛成ガアリマス
カラ、一應此處カラ簡單ニ述ベテ置キマス

○議長(片岡健吉君) 賛成ナラ賛成ト仰シヤツテ下サイ
○谷澤龍藏君(百番) 反對デゴザイマス、修正案ヲ委員長ノ報告通テ宜カラ
ウト云フノデアアリマス

○議長(片岡健吉君) ソレナラソレデ採決致シマス
○谷澤龍藏君(百番) 少シ其趣意ヲ言ツテ置カフト思ヒマス

○議長(片岡健吉君) モウ宜ウゴザイマス、採決シヤウト思ヒマス、此委員
會ノ修正説ヲ一條ツ、採決ヲ致シマスガ、先ヅ第七百三十四條ノ第二項ヲ削
除スルト云フ委員會ノ説ニ附イテ採決ヲ致シマス、委員會ノ説ハ削除デアリ
マスカラ、本案ニ即チ之ヲ削除ヲシナイト云フ方ニ附イテ採決ヲ致シマス、本
案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマスカラ、原案ニ決シマス、次ニ第八百十
三條ノ委員會ノ修正説ニ附イテ採決致シマス、委員會ノ修正説ニ同意ノ諸君
ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマスカラ、委員會ノ修正ノ通ニ決シマシタ、
次ニ本案全部ニ附イテ採決致シマス、本案ノ全部ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒ
マス

起立者 多數
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ……

○恆松隆慶君(百九番) (「贊成々々」ノ聲起ル)

○大竹貫一君(二百三十三番) 矢張定規ノ如ク二日ヲ隔テ、三讀會ヲ……

○議長(片岡健吉君) 是ハ討論ヲ用ヒズシテ、決ヲ採リマス、直チニ三讀會
ヲ開クニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、直チニ三讀會ヲ開クコトニ致シマス

民法中修正案

(「二讀會」ト呼フ者アリ)
(「沼田宇源太君演壇ニ登ル」)

○沼田宇源太君(七十一番) 諸君本員ハ本案ノ全部ニ於テ否決ヲ主張スル者
デアアル、最早當議場ノ大勢彼此申上ゲマシテモ、此原案賛成ノ諸君ガ無論御
多數ト考ヘマス、又本案ニ附キマシテハ、第一讀會ニ於キマシテ、有力ナル
吾々ノ先輩諸君モ十分御賛成ノ演説ニナツテアルコトデゴザイマスカラ、此
場合ニ至リマシテ、本員如キ者ガ、此處ニ出テ反對ノコトヲ申上ゲテ見マ
シタ所ガ、固ヨリ成立ツ管モナカラウカト考ヘマスガ、此ノ如キ重大ナル問
題ニ當リマシテ、之ヲ黙々ニ付スルコトガ出來マセヌカラ、私ハ此ニ一言反
對ノ意見ヲ申上ゲナケレバナラヌ、勿論簡單ニ申上ゲマス、本案ニ附キマシ

對ノ意見ヲ申上ゲナケレバナラヌ、勿論簡單ニ申上ゲマス、本案ニ附キマシ

對ノ意見ヲ申上ゲナケレバナラヌ、勿論簡單ニ申上ゲマス、本案ニ附キマシ

テハ、淡泊ニ申上ゲマシタナラバ、私ハ恐ラクハ一人ノ賛成者ガナイ、案ダ
 ラウト私ハ考ヘル、何ヲ以テ然カ云フカトナラバ、此案全體ノ組織ガドウナ
 テ居ルカト申シテ見マシレバ、所謂家族主義、日本ニ是マデ行レ來タ所ノ家
 族主義、西洋ノ流義ノ個人主義、此二ツノ混合シテ法律デアアル謂ハ、家族制
 度ト個人主義ノ間ノ子法律デアアルト云フテ可ナリデゴザイマスカラ、古イ頭
 ノ人ハ、此個人主義ヲ採用シタコトニ反對スル、進歩シテ頭ノ人ハ日本ノ家
 族制度ヲ認メテ居ルト云フコトニ反對シテ居ル、ウレデゴザイマスカラ、私
 ガ茲ニ有リ體ニ申上ゲマシタナラバ、政府委員ト爲テ今日出席シテ居ラレ
 ル諸君モ亦反對ノ一人デアアルト私ハ信ズルデアアル、其證據ガアル、現ニ今
 日政府委員トナツテ出テ居ラレル諸君、先キニ委員會ニ政府委員ト爲テ出
 テ居ラレタ諸君ハ、本員ガ承ツタ所ニ依ツテ見ルト、隱居ト云フコトノ制度
 ニハ、全ク反對ノ諸君デアアルト云フコトヲ聞イテ居ル、如何ニモ勿論其皆デ
 アル、今日文明ノ學問ヲシタ人、文明ノ思想ヲ持ツタ人ガ此封建制度ノ遺物
 ナル、何ヤラ譯ノ分ラヌ隱居ト云フモノニ付イテ反對デアアルト云フコトハ、
 當然ノコトデアアルカラ、先キノ法典調査委員會ニ於キマシテハ、専ラ此制度
 ヲ削除スルト云フコトヲ主張セラレタ方デアアルト云フコトヲ承ツテ居ル、所
 ガ、委員會ニ於テ隱居ノコトヲ質問シテ見マシルト、是ハ今日ノ日本ノ習慣
 ニ於テ是非ナケレバナリマセヌト、斯様ニ面ノ皮ノ厚イコトヲ云ハル、諸君
 デアル、法律ハ家族主義ナラバ、家族主義、個人主義ナラバ個人主義、何レ
 カ一ヲ貫クガ宜イデアアル、然ルニ此法律ガ世ノ中ヲ胡麻化スニ最モ適當ナ
 ル法律デアアル、一方ニハ家族主義ノ極ク古イ思想ヲ採用シテ居リマスカ
 ラ、田舎ノ百姓様ニハ極ク利キガ宜イデアアル、又一方ニハ個人主義ヲ採用
 シテ居リマスカラ、進歩シタル思想人ニ對シテハ、是ハ個人主義ヲ採用シ
 タルモノデアアルカラ、段々進歩スル世ノ中ニ當ツテハ、是非斯ウ云フ法律ノ
 行ハナケレバナラント斯様ニ言ヒ得ラレルデアアル、如何デゴザイマセウ、
 此中ノ法律全體ノ詳シイコトハ私ハ述ベマセヌガ、一例ヲ舉ゲテ見マシ
 ト、家族即チ家ト云フモノヲ認メテ居ル、從ツテ戸主ト云フ權利ヲ大變ニ重
 シテ居ル、左様致シテ、從ツテ此家督相續ト云フモノヲ尊重シテ居ルカト思
 フテ見マシルト、其家族ト云フモノニナルト、ドウデアアルカト、云フト遺產
 分配ト云フ制度ヲ採用シテ居ル、如何デゴザイマセウ、同シ一軒ノ家
 デアル、同シク一軒ノ家デアアルトキニ、家督ノ方ハ家督相續ト云ツテ昔ノ通
 慣習ヲ採用シテ居ル、其ノ一家ノ中ニ居ル所ノ兄弟夫婦ト云フモノニナツテ
 見ルト、是ハ遺產分配ノ制度デ、外國流儀ノ遺產分配ノ制度ヲ用ヒテ居ルヤ
 フニ思フデアアル、之ヲ間ノ子法律ト言ハズシテ何ント申シマセウ、然シ
 テ是マデノ日本ノ家族制度デアリマシルト、戸主ト云フモノ、權利ヲ甚ダ尊
 重シテ居ル、ソコデ此法律ニ於キマシテモ、一方ニ家族制度ヲ認メテ居ルカ
 ラ、已ムヲ得ズ、戸主ト云フ者ノ權利ヲ重シテハ居リマシガ、今度ハサウ云フ
 古イ思想ノ法律バカリハ、ドウシテモ拵ヘルコトガ出來マセヌカラ、一方ニ
 個人主義ヲ認メテ結果トシテ、親權即チ親ノ權利ト云フモノモ亦尊重シテ居
 リマス、左程ニナリマシタナラバ、一軒ノ内ニ一方ハ戸主ノ權利ト云フモノ
 ヲ尊重シテ、其ノ家族ノ内ニ、例ヘバ、兄弟ガ三人アツテ、各、其三人ノ者
 ガ妻ヲ娶ツテ子供ヲ産ンダト云フコトニナリマシルト、又親ノ權利ト云フモ

ノヲ非常ニ尊重シナケレバナラヌコトニナリマシテ、サウナリマシタナラ
 バ、同シ一軒ノ内ニ三ツ四ツノモ權利ガアル、即チ親ノ權利ト云フモノ
 ハ、三人ノ兄弟是ニ加ヘテ戸主ノ權利ト云フモノガアリマシタナラバ、一家
 ノ平和ト云フモノハ如何デゴザイマセウ、權利ノ衝突デアツテ、一家ノ平和
 ト云フモノヲ維持シテ行クコトガ出來レデゴザイマセウカ、如何デゴザイマ
 セウ、先キニ反對ノ諸君ガ、此法律ハ即チ日本ノ社會ノ關係家族制度ニ
 向ツテ爆裂彈ヲ投ジタモノデアアルト云フコトヲ申サレマシタ、然ルニ是ニ贊
 成セラレ、諸君ハ、決シテ左様ナ急激デハナイ、急激ニ變化デハナイ、爆裂
 彈デハナイト云フコトヲ仰セラレマシタ、私ハ詳シイコトハ申シマセヌ、是ハ
 日本ノ社會ノ關係ニ向ツテ爆裂彈ヲ投ジタモノデアアルト云フコトハ、極ク淡
 泊ナルコトヲ申上ゲマシタナラバ、諸君ノ銘々ノ家ノ關係ト云フモノハ是マ
 デ如何ナルコトヲ以テ一家ノ平和ヲ維持シ來ツタノデアアルカ、所謂道德ノ關
 係、德義ノ關係、是ハ即チ日本ノ家族制度ノ古イ風俗、其ノ習慣ヲ維持シ
 來ツタ所ノモノデアアル、然ルニ一度此法律ガ發布ニナツタ以上ハ、夫婦兄弟
 ノ關係ト云フモノハ、全ク變化シテ、權利義務ノ關係トナルデアアル、如何
 デゴザイマセウ、德義ノ關係、此德義ノ關係ガマルデ一變シテ、今度ハ權利
 義務ノ關係トナツテ、子ハ親ヲ養フハ親トシテ養フト云フ思想ヨリハ、寧ロ
 義務トシテ養ハナケレバナラヌト云フコトニナル、又扶養ノ義務ト云フモノ
 モ順序ヲ定メテアツテ見マシルト、祖父ガ貧困ニ迫ツテ養ハナケレバナラヌ
 ト云フコトニナツテモ、孫タルモノガ財産ヲ持ツテ居リナガラモ、是ハ子供
 ガアル、子供ガアツテ見ルト、法律ノ順序トシテ私ハ總錢一文モ祖父サンニヤ
 ルコトガ出來ナイ、ト斯様ニ權利ヲ主張スルヤウニ至ル、是ハ即チ日本ノ家
 族制度ヲ破壊スルニアラズシテ何ゾヤ、日本ノ社會ノ關係ニ向ツテ爆裂彈ヲ
 投ズルト言ハズシテ、何ト申スノデゴザイマセウ、而シテ條約改正ノ關係ノ
 コトニ付キマシテハ、先キニ反對論者モ贊成論者モ十分ニ御述ベニナリマシ
 タカラ、私ハ今日是ニ付イテ委シイコトハ申シマセヌ、唯鳩山君ガ斯様ナコ
 トヲ申サレテ居ル、是ハ成程贊成デアアル、山田君ノ說ニ贊成デアアル、サリナ
 ガラ、今ノ伊藤總理大臣ノ弱蟲先生ニ持ツテ行ツテ、斯様ニ外交談判ヲセヨ
 ト云フテモ出來ルコトハ思フテ居ルカドウデアアルカ、ソレデアアルカラ、是ヲ
 贊成スルデアアル、果シテ如何ナルコトデゴザイマセウ、成ル程伊藤總理大
 臣ノ外交ト云フモノハ御互ニ多年御手並ヲ拜見シテ居ル、伊藤總理大臣ノ内
 閣ニ持ツテ行ツテ斯様ノ外交談判ヲセヨト注文スルノハ、或ハ無理カモ知レ
 マセヌガ、是ハ左様ナル厄介ナ伊藤總理大臣ガ腰拔カス程ノ問題デハ決シテ
 ナイデアアル、如何デゴザイマシ、既ニ日本ト暹羅トノ條約ニ於テ、暹羅ノ
 方カラ自分ノ國ノ親族相續ハ、此條約改正ヲ實施スルニ附イテハ編纂シナ
 イト云フコトヲ日本ニ斷ツテ來タノニ、日本ガ之ヲ承諾シテ居ル、平素ハ我
 日本國ハ暹羅ト云フ國ハ二等國デアアルトカ三等國デアアルトカ云ツテ非常ニ輕
 侮シテ居ル、其國ガ斯様ナコトヲ申込デ威張ツテ居ルノニ、我日本帝國ガ
 之ヲ承諾シテ居ルト云フ、左様ナ雜作ノナイ問題ニ對シテ外國ニ交渉ヲ開カ
 レヌト云フコトハ決シテナイデアアル、殊ニ若シ伊藤總理大臣デハ駄目デア
 ルカラ、ソレヲヤラヌト申シマシラバ、諸君ガ平生唱ヘテ居ル所ノ對外
 硬ト云フモノハ何事デアアル、伊藤總理大臣ニ向ツテ幾ラ對外硬ヲ申シテ見タ

(110)

所ガ、何ノ效ガアリマスルカ、決議案モ上奏案モ若ハ外交ノ質問モ一切止メテ仕舞フガ宜シイノデアル、吾ハ議員トシテ議員ノ爲スベキ職務ハ必ズナサナケレバナラヌノデアル、ソレヲ若シ特ニ外交官ガ軟弱ニシテ爲スコトガ出来ナカッタラバ、是ハ十分責メルガ宜イノデアル、外交官ガ爲シ得ル力量ガナイカラト申シテ、斯ノ如キ重大ナル法律案ヲ直ニ盲目判ヲ押スト云フコトハ、果シテ如何ナルコトデゴザイマセウ、鳩山君ハ是ニ向ッテ斯様ナコトヲ云フテ居ルノデアル、此問題ハ長イ問題デアル、ソレデアルカラ、御前方ハ皆十分知ッテ居ルダラウ、如何ナル胡魔化シテゴザイマセウ、成ル程民法殘部ト云フ言葉ハ長イ言葉デアルケレドモ、此法典ヲ諸君ノ御手許ニ配付シタノハ、此議會始マテ後ニ始テ配付シタノデアル、諸君ガ如何ニ神様ノ如キ人デアリマシテモ、人間普通ノ能力トシテ此短日月ノ間ニ、何ヲ以テ之ヲ十分審査スルコトガ出来得ルデゴザイマセウ、第九議會ニ於キマシテハ、政府ハ浩濼ナル民法ヲ提出シマシテ、議會ニ盲從ヲサセタノデアル、議會モ亦是ニ盲從シタノデアル、サリナガラ、彼ハ盲從テ決シテアツタカラト云フテ、ソレナニ咎メルニハ及バナイ、謂ハシ賣買トカ、貸借ト人權トカ、物權トカ、金ヲ貸シタ者ハ斯ウナル、商フ者ガ斯ウナルト云フ位ノコトデゴザイマセウ、惡ルカケレバ又直シテ宜シイ、併ナガラ、此度ノ親族相續ノ如キコトニ至ッテハ、惡ルイカラ又直サウト云フ、左様ナ轍イコトガ出来マスルカ、一度此家族關係ヲ破壊シタ以上ニナリマシタラバ、此日本ノ種々ナル社會的關係ニ於テ、如何ナル風波ガ生ズルデゴザイマセウ、政府委員ハ日本ノ舊慣ヲ採用シタカラ、左様ナコトハ決シテゴザラヌト、斯ウ申ス、其日本ノ舊慣ヲ採用シタト云フ言葉ニ依ッテ見マスルト、大審院ノ判事ガ何年カニ斯ウ云フ判決ヲシタ、是ガ日本ノ舊慣デアルト云フ、何タル隱語デゴザイマセウ、大審院ノ判事ハ諸君如何ナル先生方デアルト御考ヘナサルカ、アノ人、ガ一度判決ヲ下シテアル、二度判決ヲ下シテアル、ソレデハ日本ノ舊慣デアアル杯ト云フコトハ、誠ニ途方モナイ事柄デアルト私ハ考ヘル、殊ニ此人事ノ關係ニ至リマシテ、若シ此法律ヲ行ッテ見マシタラバ、必シモ圓滑ニ行レル氣遣ハゴザイマセウ、必ズ修正ヲ出サナケレバナラヌト云フ必要ガ迫ッテ來ル、外ノコトナラバ格別、人事ノ關係ニ於キマシテ修正ニ又修正ヲ加ヘルト云フコトナリマシタラバ、人ノ一家ノ安寧ト云フモノハ、何ヲ以テ安心スルト云フコトガ出來ルデゴザイマセウ、夫婦ノ關係、親子ノ關係、此法律ガ果シテ萬一屢々變更スルコトニナリマシタラバ、非常ナル混雜非常ナル錯雜ガ此處ニ生シテ來ナケレバナラヌト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、殊ニ日本ノ今日ノ狀態、毎日進歩シツ、アル所ノ狀態デアアル、之ヲ以テ參リマシテ、日々ニ進んで參ル所ノ社會ニ於テ、參ッテ斯様ナ古イ思想ト新シイ思想、古イ思想モ極々極端ナル彼ノ士ト云フ時代カラノ遺物ノ懸居制度ト云フガ如キモノヲ認メ、而シテ又一方ニハ極端ナル財產分配ノ制度ヲ認メテ法律ヲ行ッテ、進ムデ行カントスル所ヲ、一方デハ抑へ、一方ニハ又最早消滅セントスル所ノモノヲ此法律ヲ以テ此處ニ存シテ置クト云フコトニナリマシタラバ、果シテ如何デゴザイマセウカ、政府委員ハ決シテ心配ガナイ、是ハ日本ノ今日ニ適當ナモノデアルト、斯様ニ申サレマスガ、政府委員ガ幾

ラ保證致シマシタ所ガ、一度此法律案ガ發布ニナリマシテ、日本ノ社會的國係ト云フモノガ全ク破壊セラレルコトニ至リマシタラバ、其場合ニ政府委員ニ喰ッテ掛ッテ見タ所ガ、何ノ役ニ立タヌ話デアアル、其時ノ責任ハ果シテ何人ガ負フノデゴザイマセウ、我衆議院ハ苟モ立法部トシテ斯ノ如キ法律案ニ於テハ殊ニ十分審議討論ヲ盡サナケレバナラヌ所ノ責任ヲ持ッテ居ル者デアアル、然ルニ未ダ一讀ノ違モアラズシテ、政府委員ガ斯様ニ申ス、條約改正ト云フ政府ガ鬼ノ面ヲ冠ッテ來テ威シ附ケルト、是ニ從ッテ盲從スルト云フガ如キハ、誠ニ私ガ慨嘆ニ堪ヘナイ次第デゴザイマス、依テ本員ハ此處ニ全部否決ノ說ヲ提出致シマス

○議長(片岡健吉君) 星松三郎君

(星松三郎君演壇ニ登ル)

(「簡單」「簡單」ト呼フ者アリ)

○星松三郎君(二百十七番) マダ言ハヌ中カラ簡單ト言ハレテハ困ル、(成ルベク詳シク)ト呼フ者アリ)私ハ簡單ト言ハレナクトモ、簡單ニ言ハウト云フ考デゴザイマス、此處ニ登ッテ辯シヤウト云フノハ、先刻ノ波多野君ノ說ニ贊成シヤウト言ツタ所ガ、機會モ惡ルウゴザイマシタニ依ッテ二十八ノ贊成者ガナカッタテ發言ヲ許スコトガ出來ヌト云フコトデ、殘念ナガラ其儘ニナッテ仕舞ツタ、ソレヲ私ガ言ハント欲スル所デアッテ、要スルニ先刻波多野君ガ辯シタ所ハ

(「三讀會ダカライケナイ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) モウ三讀會ニナリマシタカラ、ソレハイケマセヌ

○星松三郎君(二百十七番) 然ラバ私ハ唯今沼田君ノ述ベラレタ所ノ意ヲ以テ廢棄說ニ贊成スル一人デアアル、何トナレバ、此不備ナ所ノモノヲ此短期ノ中ニ唯盲從セヨ的ノ考ヲ持ッテ通過スルト云フノハ、通過セシメヤウト云フノハ、甚ダ遺憾トスル所デアアル、元來我輩ノ望ミハ左様デナイケレドモ、此場合ニ至ッテハ、勢此不備ナル所ノアルガ故ニ、矢張此場合ニハ否決スルト云フコトニ同意ヲ致スルメニ、一言述ベテ此壇ヲ降りマス

○恆松隆慶君(百九番) 討論終結

(贊成々々ト呼フ者多シ)

○議長(片岡健吉君) 討論終結ニ御異議ガナケレバ、サウ決シマス

○大竹貫一君(二百三十二番) 此贊否ヲ決スルニ附イテハ、私ハ記名ヲ以テ贊否ヲ決シタイト存ジマス、何トナレバ、此千載不磨ノ大典ト謂フベキ所ノ親族相續ノ二編ヲ討論十分盡サズシテ、一瀉千里ヲ以テ、決スルト云フハ、何等ノ失態デゴザイマセウ、少クトモ將來ノタメニ記名投票ヲ以テ贊否ヲ決シ置キタイデス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 大竹貫一君ノ此動議ニハ二十名以上ノ贊成ヲ要シマス

(「アリマス、アリマス」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 議長ハナイト認メマス

(「アル、アル」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) ソレデハ、尙ホ念ノタメニ起立ヲ願ヒマス、大竹貫一君ノ本案ノ採決ハ記名投票ヲ、用フルト云フ說ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマ

起立者 少數

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス、ソレデハ採決ヲ致シマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數デゴザイマス、原案ハ確定ヲ致シマシタ

(散會ヲ希望スト) 呼フ者アリ又「マダヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第二戸籍法案ノ一讀會ノ續ニ移リマス— 大田信一君

第二 戸籍法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

(大田信一君演壇ニ登ル)

○大田信一君(二百十九番) 諸君、私ハ戸籍法案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、即チ本案ハ五月二十三日ヲ以テ委員ニ御附託ニ相成リマシテ、其後第一回委員會ヲ開キマシテ、委員長及理事ノ選舉ヲ行ヒマシタコトデゴザイマス、ソレカラ引續イテ日々會議ヲ開キマシタガ諸君モ御承知ノ通、此法案ハ二百十餘箇條ニナツテ居リマスル所ナ大層ナ議案デアリマス、故ニ數回ノ委員會ヲ開キマシテ、或ハ政府委員ニ向ッテ質問ヲ爲シ、之ニ對スル應答ハ實ニ屢々デアリマシタガ其結果トシテ、即チ諸君ノ御手許ニ御同シ致シテゴザイマス此報告書ノ如クニ修正致シマシテ、其他ハ原案ヲ以テ可決致シマシタ譯デアリマス、然ルニ此修正ノ箇條ハ極ク簡單ナモノデゴザイマシテ、即チ第六十九條ノ如キ又ハ第七十三條ノ如キ、又ハ第七十六條ノ如ク、別段是ハマイシタル修正ノ意味ノアルト云フ譯デアリマセヌ、御承知ノ如ク、第六十九條ハ父ノ本籍ノ下ヘ本籍トノミデハ、他日不都合ガ生ズルト云フ虞ヲ以テ、「若ハ寄留地」ト云フ字ヲ挿入シタメ止メテ譯デ、其他二三條ノ挿入ガゴザイマスガ、即チ此六十九條ニ父母ノ本籍地ノ下ヘ、「若ハ寄留地」ト入レマシタ、故ニ是ガ權衡上其他二箇所ヘモ挿入ヲシナケレバナラヌト云フ結果ニナリマシタ譯デアリマス、ソレカラ七十三條ノ「裁判確定ノ日ヨリ十日内」トアリマスルノヲ、即チ「裁判確定ノ日ヨリ一箇月内」ト改メマシタコトハ、如何ニモ此十日内ト致シテ置キマシテハ、時日ガ短期デアリマシテ、或ハ此法律ヲ施行ノ上ニ隨分差支ガナイトモ云ヘナイト云フ所以デ以テ、此七十二條ヲ修正致シマシタ譯デアリマス、ソレカラ七十六條ノ修正モ矢張同一ノ意味、即チ七十九條其他以下百二十九條ニ至ルマデハ其影響ト致シマシテ、矢張十日内トアルノヲ一箇月ト云フ事ニ修正致シマシタ譯デアリマシタ、ソレカラ百四十五條中ニ「指定ヲ爲シタル者」ノ下、「其時日ヲ知りタル日ヨリ一箇月内ニ」ト云フノ十七字ヲ加ヘテ、「提出シテ」ノ下、「遲滞ナク」ト云フノ四字ヲ削リマシタ譯デアリマス、是モ別段マイシタ譯デアリマセヌ、ソレカラ第二百二十八條中ニ「裁判カ確定シタル日ヨリ十日内」トアルノヲ、矢張リ「裁判カ確定シタル日ヨリ一ヶ月内」ト改メルト云フコトニ修正ヲシマシタノモ、矢張前條影響ニ依リマシテ、此條ヲ修正シタ譯デアリマス、ソレカラ第二百十條中、届出ヲ怠リマシタ所ノ過料デアリマス、此過料即第二百十條ニハ「二十圓」トアリマスルノヲ「十圓」ト修正可決致シマシタノデゴザイマス、ソレカラ續イテ二百十一條中、矢張

同種類ノモノデアツテ、「四十圓」トアルヲ「二十圓」ト修正致シタノデゴザイマス、是ハ尤モ諸君モ御承知ノ如ク、届出ヲ怠リシ者ノ過料デアリマシテ、此届出ヲ怠ルト云フモノ、中ニハ、或ハ概シテ申ス譯ニハ行カナイデアリマセウガ、多分貧困ノ者ニハ東西不辨ノ者モ多イ、サウシテ見ルト云フト、届出ヲ怠ルト云フ者ニ至ッテハ、或ハ貧困者ガ多イト見レバ、此二十圓ト云フ

二百十條ノ二十圓ト云フ過料モ餘程苛酷ナモノデアアル、即チ過當ナモノデアアル、矢張二百十一條ニ至リマシテモ、此四十圓ト云フコトハ、實ニ苛酷過ギル、過當デアアルト云フ意味ヲ以テ、此二箇條ヲ「二十圓」トアルヲ「十圓」ト改メ、「四十圓」トアルヲ「二十圓」ト改メ、又第二百十三條中ニ「二十圓」トアルヲ「十圓」ト改メ、「五十圓」トアルヲ「二十圓」ト改メ、又二百十三條中ニ「二十圓」トアルヲ「十圓」ト改メ、「二十圓」ト改メ、「二十圓」ト改メ、是ハ諸君モ御承知ノ如ク、戸籍吏ノ故意デ以テ、其事務ヲ故ナクシテ怠リ、又ソレガタメニ損害ヲ與ヘルトカ、或ハ差支ヲ生ジサスト云フ場合ニ、之ヲ適用スルト云フノ規則デアリマス、然ルニ此「五十圓」ヲ「二十圓」ト改メ、「二十圓」ヲ「十圓」ト改メト云フ理由ハ、固ヨリ此戸籍吏ナル者ハ、法律ノ結果ト致シテ、戸籍吏ト云フ仕事ヲクツ附ケラル、ト云フモノ、戸籍吏其者ノ身分ト云ハ、即チ町村制ニ依ッテ名譽職ニ居ル者デアアル、如何ニ其戸籍吏ナル者ガ、萬々一惡意ヲ以テ過誤失錯ガ出來タト云フ場合タリトモ、是ニ向ッテ五十圓若ハ二十圓ト云フ苛酷ナル科料ヲ付スルト云フコトハ、實ニ氣ノ毒ナ場合デアアル、斯ノ如キ者ハ宜シク相當ノ額ニ減シタラ宜カラウト云フ説ヲ提出セラレテ、終ニ「五十圓」トアルヲ「二十圓」ト改メ、「二十圓」トアルヲ「十圓」ト改メ、多數ヲ以テ可決致シマシタ次第デアリマス、其他別段簡單ナ修正デアリマスルカラ、理由ヲ御報告ニ及ブ程ノ必要モゴザリマセヌ、ドウカ此邊ヲ御諒知下サツテ、本案ハ急ニ可決セラレンコトヲ希望致シマスル次第デアリマスル、一言御報告ヲ申シテ置キマス

○恆松隆慶君(二百九番) 此案ハ大體賛成デアリマス、直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○鈴木總兵衛君(百七十四番) チョット政府委員ハ唯今ノ委員會ノ修正ニハ同意セラレタカ如何デアリマス、念ノタメ開イテ置キマス

○政府委員(高木豐三君) 政府委員ノ方ハ、同意ヲ致シマシタ

(「モウ少シ大キイ聲デナケレバ分リマセヌ」ト呼フ者アリ)

○政府委員司法省民刑局長高木豐三君演壇ニ登ル

○政府委員(高木豐三君) 唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ修正ノ廉マハ、政府委員ニ於テ凡テ同意ヲ致シマシタ次第デアリマス、此旨ヲ……

○議長(片岡健吉君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ニ付イテ採決ヲ致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ第二讀會ヲ開クコトニ致シマス

(「全部異議ナシ」ト呼ビ又「讀會省略」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 直チニ第二讀會ヲ開クコトニ附イテ御異議ハアリマスマ

イカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ直チニ第二讀會ヲ開クコトニ致シマ

シテ、全部ヲ議題ニ供シテ朝讀ヲ省略致シマス

戸籍法案

第二讀會

○恆松隆慶君(百九番) 讀會省略ヲ希望致シマス

(賛成々々)ト呼ビ又「異議ナシ採決」ト呼フ者アリ

○白田省吾君(百六十二番) 私ハ簡單ナル修正意見ヲ提出シタイト存ジマス、ツレト云フモノハ餘ノコトデアリマセヌガ、此二百十二條デゴザイマス、戸籍吏ニ對シテ五十圓以下ノ過料ニ處セラレルト云フコトハ委員會ニ於テ御修正ニナリマシタ...

○議長(片岡健吉君) 修正說ナラバ登壇ナサイ

(白田省吾君演壇ニ登ル)

○白田省吾君(百六十二番) 私ノ意見ト云フモノハ、二百十二條ノ削除ノ意見デアアル、ツレト云フ最モノハ、ドウデアルト云フト、委員會ニ於テハ、矢張先刻委員長ノ方カラ報告ニナリマシタ如クニ、二十圓ト云フコトニ修正セラレタコトデアリマシタガ、是ハ其町村長ニ於テ戸籍吏ヲ務ムルコトニナツテ見レバ、斯ウ云フ苛酷ナ箇條ヲ當テ箝メルト云フコトハ、穩當ヲ缺クト、私ハ考ヘル、何トナレバ、御承知ノ如ク、町村長ニモ矢張村長ニ失策ノアツタナラバ處分スル箇條ガアル、殊更ニ此戸籍吏ニ對シテハ、茲ニ置ク必要ハナイト考ヘマス、其次ニハ二百十三條、是モ同斷ニ對シテハ、斯様ノ過料ニ處スルト云フコトハ穩當ヲ缺クカラシテ、二箇條トモ削除スルト云フ意見デアアル、滿場ノ諸君ハ宜シク御考下サルヤウニ願ヒタイ

○議長(片岡健吉君) 修正說ニハ贊成者ガアリマセヌカラ、消滅シマス、百九番ヨリ讀會省略ノ動議ガ出テ居リマスカラ、是ニ附イテ採決致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ讀會ヲ省略致シマス

戸籍法案

確定議

○議長(片岡健吉君) 委員會ノ修正全部ニ就イテ採決致シマス、委員ノ修正說ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、是デ本案ハ確定シタモノト認メマス

○恆松隆慶君(百九番) マア少シ定規ノ時間ガアルカモ知レマセヌガ、本日は是レ限デ

(賛成々々)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御諮リ致シマス、次ノ第三ノ日程ハ衆議院議員選舉法デアリマスガ、是ニハ隨分議論モアリマセウト思ヒマスガ、是ヨリ時間ヲ延ベテモ引續イテ第二ノ日程ヲ議スカ、或ハ之ヲ明日ニ延ヘルカト云フコトニ附イテ採決致シマス、百九番ノ說ノ如ク、今日ハ是デ散會スルコトニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス——チヨット御報告スルコトガアリマス、先刻小室重弘君カラ請願委員會ガ請願文書表ヲ配付シナイト云フコトデアリマシタガ、議長ノ手許ヘ五月三十日ニ請願文書表ガ出テ居リマシテ、今

印刷中デアリマスカラ、其事ヲ報告致シテ置キマス

○中村彌六君(二百三十一番) 衆議院議員選舉法改正法案ハ明日ノ議事日程ニ上セラレンコトヲ希望致シマス(賛成々々)ノ聲起ル)サモナイト、政府ノ都合テ段々尻ノ方ニ回ハシテ仕舞ヒマスト、握リ潰サレルカモ知レマセヌカラ

○議長(片岡健吉君) 明日ノ議事日程ヲ報告致シマス

(寺田書記官朗讀)

午後一時開議

衆議院議員選舉法改正法律案(政府提出)

第一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 民法施行法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 人事訴訟手續法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 非訟事件手續法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案

第六 明治三十一年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

第七 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ

第八 裁判所設立廢止及管轄區域變更ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 罹災救助基金法案(政府提出) 第一讀會

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十二 航海獎勵法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十四 岡山縣下郡廢置法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 明治三十一年勅令第二十一號(政府提出) 貴族院送(委員長報告)

第十六 千葉縣茨城縣境界變更法律案(木村格之輔君) 第二讀會

第十七 秩祿整理公債法案(深山舜嶺君) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 國有土地森林原野官民有區別處分法案(中村彌八名) 第一讀會

提出)

○議長(片岡健吉君) 是デ散會

午後五時散會

